



公益財団法人 日本ハンドボール協会 編
平成31年3月1日発行(毎月1回1日発行) 通巻589号

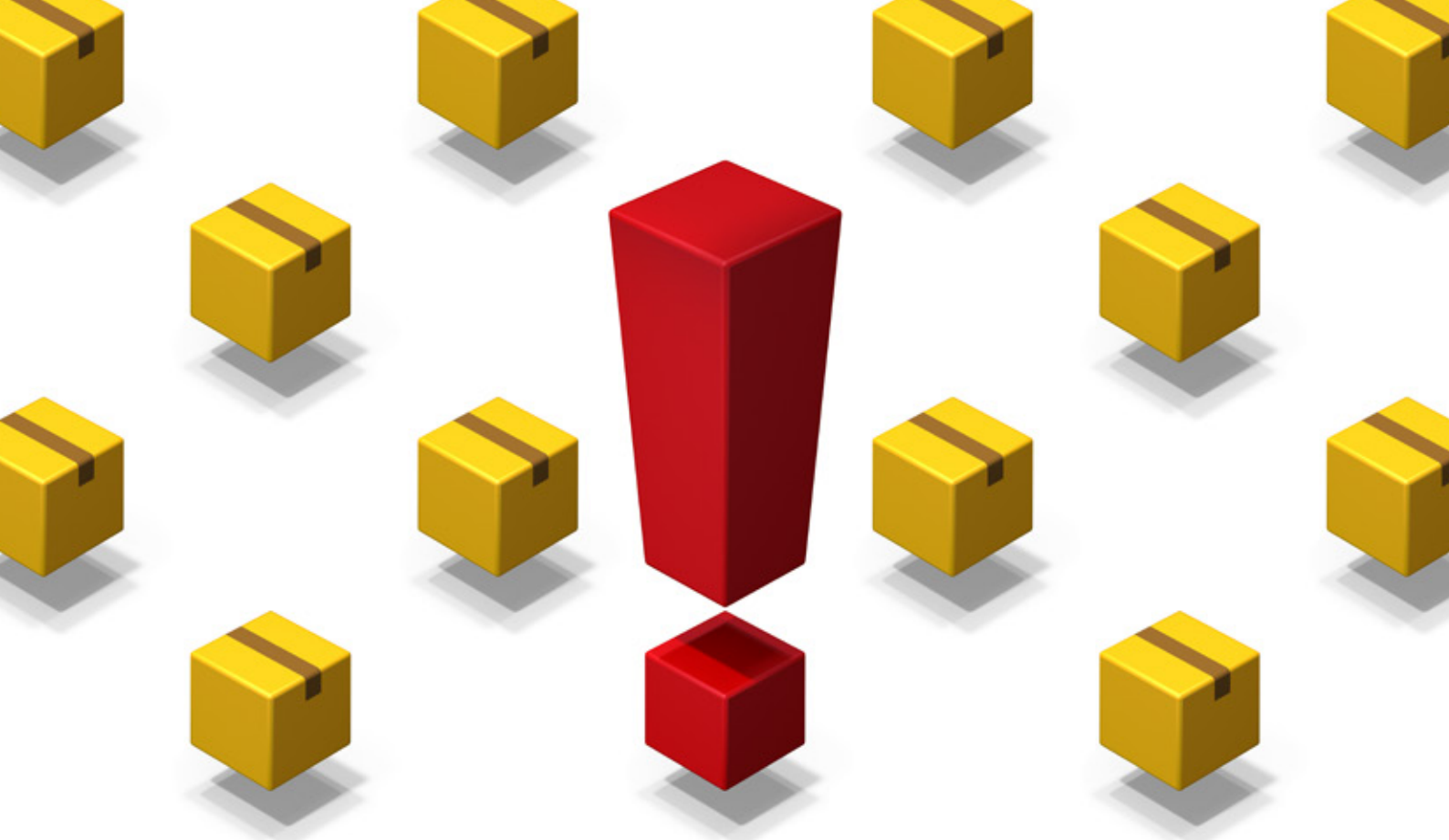
ハンドボール

3

MAR.2019
No.589



- 第26回男子世界選手権
- 第70回日本選手権大会(男子の部)
- 2018年度NTSセンタートレーニング報告



世界が驚く、 物流をつくらう。

東京2020大会を、物流から支えています。



東京2020オフィシャル荷物輸送サービスパートナー



プレミアム・リゾートという選択

一戸建て住宅型有料老人ホーム



メディケアサポートHABA

2017年12月伊豆高原にオープン

12/1(金)より予約申し込み開始!

☎ 0557-51-7887 (担当 土屋・はば)

私たち株式会社ユリカコーポレーションは、お客様方へ不動産を用いたライフプランをご提案しております。自社ブランドである『YURIKA ROSE』(ユリカ ロゼ)シリーズや、社有物件も展開! 待望の2020年『東京オリンピック』まで、いよいよカウントダウンが始まりました。弊社も選手達と共に邁進していきますので、どうぞよろしくお願ひ致します。



私達、株式会社ユリカコーポレーションは女子ハンドボールを応援しています!!

株式会社ユリカコーポレーション

〒101-0041 東京都千代田区神田須田町2-6-2 神田セントラルプラザ1202

TEL : 03-3525-8986 / FAX : 03-5295-8188 <http://yurika-co.jp/>





あたたかい空へ。あたらしい空へ。

ANA Inspiration of JAPAN

A STAR ALLIANCE MEMBER 

Eat Well, Live Well.

Aji
AJINOMOTO.

Behind Your "Best"



新しいバスケットボール
鳥海 連志 選手

バドミントン
松友 美佐紀 選手



競泳
瀬戸 大也 選手

バドミントン
高橋 礼華 選手

ハンドボール
原 希美 選手
ハンドボール
永田 しおり 選手
ハンドボール
横崎 彩 選手

空手
喜友名 諒 選手

5人制サッカー
加藤 健人 選手
5人制サッカー
黒田 智成 選手

パラ水泳
一ノ瀬 メイ 選手
パラ水泳
木村 敬一 選手
パラ水泳
山田 拓朗 選手

©The Asahi Shimbun via Getty Images
©Atsushi Tomura/Getty Images for Tokyo 2020
©Junya Nishigawa - PARAPHOTO/Getty Images
©Ian MacNicol/Getty Images ©JBFA ©X-1

味の素(株)は「勝ち飯®」メニューを選手に提供することで、
東京2020オリンピック・パラリンピック日本代表選手団を応援しています。

＼ がんばる人のチカラになるごはん！

勝ち飯®

オリンピック・パラリンピック日本代表選手団が、世界で勝つために。

味の素(株)は、独自の栄養プログラム「勝ち飯®」メニューで、
彼らのカラダづくりを支えています。



東京2020オフィシャルパートナー
(調味料、乾燥スープ、アミノ酸ベース顆粒、冷凍食品)



【表紙の写真】
第26回男子世界選手権

CONTENTS

- 07 日本ハンドボールのさらなる国際化に向けて
——(公財)日本ハンドボール協会常務理事、国際本部長、アスリート支援本部長・栗山雅倫

第26回男子世界選手権

- 08 大会結果
11 男子日本代表『彗星 JAPAN』メンバー表
12 団長レポート——日本協会副会長・福地和彦
14 世界選手権 2019 報告——男子日本代表監督・ダグル・シグルドソン
18 世界選手権を終えて——男子日本代表主将・信太弘樹
19 戦評
22 帯同メディカル報告——帯同ドクター・沖本信和、帯同トレーナー・飯田純一郎、林知希
24 男子世界選手権過去の大会結果

第70回日本選手権大会(男子の部)

- 25 最終順位
26 大会を開催して——熊本県協会理事長・奥園栄純
27 優勝：豊田合成ブルーファルコン 監督・田中 茂、主将・小塩豪紀
28 戦評
30 TOPICS——東京トライスターズ監督・横地康介
31 「ハンドボールxテクノロジー」実現に向けた取り組み——日本協会事務局長・清水茂樹
33 理事会・全国理事長会議より
34 2018年度 NTS センタートレーニング報告
——NTS 委員長・古橋幹夫
38 【熊本通信】「くまモンハンド部」創設！

がんばれハンドボール 20万人会「サポート会員」1月入会・継続会員

【千葉】山田友美【神奈川】生熊健二【新潟】遠藤正伸【愛知】大久保栄一、大久保里枝、池宮城正吉【京都】廣瀬佳代

次号 4月号 (No. 590) は 4月 1日 発行 予定です。



新刊

ハンドボールスキルアップシリーズ 目からウロコのDF戦術

スポーツイベント・ハンドボール編集部 編著

B5判 144ページ 1,800円+税 発行元 グローバル教育出版

ハンドボールに欠かすことのできないDF。そのDFについて、1対1の守り方から始まり、チームとしての守り方まで、日本を代表する指導者が解説しています。また、DFシステムについても詳細に紹介。「DF」ならこの1冊にお任せください。

既刊



目からウロコの個人技術
1,800円+税

株式会社スポーツイベント 〒101-0047 東京都千代田区内神田2-4-2 TEL:03-3253-5941 FAX:03-3253-5948

日本ハンドボールの さらなる国際化に向けて



公益財団法人 日本ハンドボール協会 常務理事
国際本部長・アスリート支援本部長

栗山 雅倫

2019年となり、いよいよ“激動の時”が本格化します。2020東京オリンピックまで、すでにラストスパートが始まっていると言っても過言ではありません。今のこの時こそ、ハンドボール界の全エネルギーを集結させるタイミングであることに、疑う余地はありません。

年末に熊本の地にて開催される世界選手権に向けては、熊本の方々の並々ならぬご尽力とともに、日本ハンドボール協会の総力をあげて準備に取り組んでいるところです。すべてのハンドボール界の皆様とともに、大会の成功、そして日本ハンドボールの躍進を成し遂げて参りたいと思います。

さて、目前に控える2つの国際的なイベントの準備を通し、日本ハンドボールのさらなる国際化の需要が、内外から高まっています。国際ハンドボール連盟、アジアハンドボール連盟との連携もさることながら、各国との協働が欠かせない時代が到来しました。近年ヨーロッパとの交流が深まる中、アジアのリーダーとして、日本からあらゆるメッセージの発信が期待されています。先般デンマークのトップコーチであるJan Pytrick氏（オリンピック、世界選手権でゴールドメダルを獲得した名将）と会談する機会があり、その席において氏が言及したのは、「例えばルールに関する提言を、日本がヨーロッパの国々と連動して行うこと等も、極めて有効な手段とある」との見解でした。いかなるスポーツ種目のケースを見ても、国際的な場において、ルールやレギュレーションなどの重要な取り決めに関する動きの中で、存在感を示すことは、その国の競技力を左右する重要なファクターになっているようです。日本の競技力のポテンシャルに関し、海外からのその評価は決して低くないと感じます。そして世界最大のイベントが続くという状況下において、日本から発信されるメッセージは、このタイミングだからこそ、際立って行く可能性は極めて高いのではないのでしょうか。

すでにグローバルに多くのアスリートが活躍する種目も存在します。ハンドボール界でも女子代表の池原綾香選手のように、世界のトップレベルのリーグで大活躍する存在も出てきました。このような流れを常態化させることが、我々日本ハンドボール協会が取り組んでいくべき極めて重要な課題であると確信します。熊本開催の世界選手権、そして2020東京オリンピックの舞台上、堂々と振る舞う日本代表チームであることは、ハンドボール界全体の希望であることは間違いのないことと思います。同時に「東京オリンピック後」に向けた環境整備もまた、待った無しの状態です。グローバルに活躍することが、ごく自然なこととして感じる日本ハンドボール界にすべく、皆様とともに取り組んでまいりたいと思います。

第26回男子世界選手権



最終順位

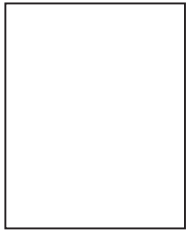
優勝：デンマーク 2位：ノルウェー 3位：フランス 4位：ドイツ 5位：スウェーデン 6位：クロアチア
7位：スペイン 8位：エジプト 9位：ブラジル 10位：ハンガリー 11位：アイスランド 12位：チュニジア
13位：カタール 14位：ロシア 15位：マケドニア 16位：チリ 17位：アルゼンチン 18位：セルビア
19位：オーストリア 20位：バーレーン 21位：サウジアラビア 22位：コリア 23位：アンゴラ 24位：日本



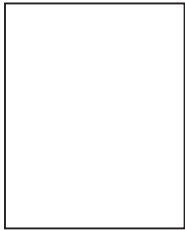




男子日本代表 『彗星 JAPAN』



団長
福地 和彦
(公財)日本ハンドボール協会



チームリーダー
田口 隆
(公財)日本ハンドボール協会



ヘッドコーチ
Dagur Sigurdsson
(公財)日本ハンドボール協会



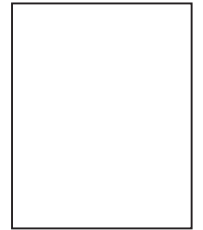
アシスタントコーチ
舎利弗 学
(公財)日本ハンドボール協会



GKコーチ
Antoni Parecki
(公財)日本ハンドボール協会



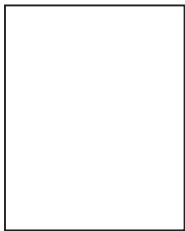
GKコーチ
北林 健治
(公財)日本ハンドボール協会・
都城工業高等学校



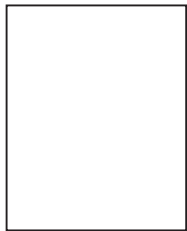
ドクター
沖本 信和
(公財)日本ハンドボール協会・
沖本クリニック



トレーナー
飯田 純一郎
(公財)日本ハンドボール協会・
J-フロントライン



トレーナー
林 知希
(公財)日本ハンドボール協会・
浜臨整形外科リハビリセンター



アナリスト
吉田 洋志
(公財)日本ハンドボール協会・
仙台大学



1 GK
佐々木 亮輔
豊田合成
日本体育大学出



7 LW
宮崎 大輔
大崎電気
日本体育大学出



10 LW
杉岡 尚樹
トヨタ車体
中央大学出



11 RB
東長濱 秀希
大崎電気
日本体育大学出



13 PV
笠原 謙哉
トヨタ車体
東海大学出



15 LB
部井久 アダム 勇樹
Cesson Rennes(FRA)
博多高校出



16 GK
甲斐 昭人
トヨタ車体
日本体育大学出



18 LW
成田 幸平
湧永製薬
大阪体育大学出



19 RB
徳田 新之介
Dabas(HUN)
筑波大学出



20 RB
渡部 仁
トヨタ車体
日本大学出



21 LW
土井レミイ 杏利
Chartres(FRA)
日本体育大学出



24 LB
信太 弘樹
大崎電気
日本体育大学出



25 RW
元木 博紀
大崎電気
日本体育大学出



26 GK
久保 侑生
大同特殊鋼
筑波大学出



27 PV
玉川 裕康
大崎電気
国士舘大学出



29 PV
岡元 竜生
トヨタ車体
中部大学出



31 LB
吉野 樹
トヨタ車体
明治大学出



33 CB
東江 雄斗
大同特殊鋼
早稲田大学出



44 CB
門山 哲也
トヨタ車体
日本大学出

2019年男子世界選手権 団長レポート

福地 和彦（日本ハンドボール協会副会長）

第26回男子世界選手権は、決勝でデンマークがノルウェーを下し初優勝、東京オリンピックの出場権を獲得して閉幕しました。私は、予選ラウンドまで日本チームの団長として行動を共にしました（以後は田口強化本部長と交代）。日本は、アジア選手権（兼世界選手権予選）で6位となり、出場権を獲得できませんでしたが、その後国際ハンドボール連盟よりワイルドカードでの出場権を得ました。結果は残念ながら、24か国中24位となりました。戦評については監督等が別途語ると思いますので、私は大会運営などの視点から皆さんに報告をしたいと思います。

①概要

大会日時：2019年1月9日～27日

開催国：デンマーク、ドイツ（史上初の2か国開催）

出場国：24か国（〈〉括弧内の数字は今回の世界大会順位結果）

欧州（13か国）：デンマーク〈1〉、ノルウェー〈2〉、フランス〈3〉、ドイツ〈4〉、スウェーデン〈5〉、クロアチア〈6〉、スペイン〈7〉、ハンガリー〈10〉、アイスランド〈11〉、ロシア〈14〉、マケドニア〈15〉、セルビア〈18〉、オーストリア〈19〉

アフリカ（3か国）：エジプト〈8〉、チュニジア〈12〉、アンゴラ〈23〉

アジア（4か国）：カタール〈13〉、バーレーン〈20〉、サウジアラビア〈21〉、コリア〈22〉

パンアメリカン（3か国）：ブラジル〈9〉、チリ〈16〉、アルゼンチン〈17〉

ワイルドカード：日本〈24〉

大会方式：予選は4グループ（各グループ6チーム）による総当たりリーグ戦を実施、上位3チームがセカンドステージへ進出。セカンドステージは、2グループ（各グループ6チーム）に分けてリーグ戦を実施、上位4チームが決勝トーナメントへ進出（ベスト8）、他のチームは順位決定戦に回る。

日本チーム予選グループB：クロアチア、スペイン、アイスランド、マケドニア、バーレーン

大会特記：韓国は北朝鮮と統一コリアで出場。本来ベンチは16名だが、国際ハンドボール連盟は特別に韓国16名、北朝鮮4名の合計20名をベンチに入れる事を承認した。

②大会運営の素晴らしさ

ア) 会場の大きさ

日本チームの予選はミュンヘン（ドイツチームの予選会場はベルリン）で、会場は12,000人収容の多目的アリーナ、まずはその大きさには驚くばかり。しかもミュンヘンではドイツチームの試合が無いにもかかわらず、予選でも連日毎試合、客席の7-8割が埋まるほどで、関心の高さには驚くばかりでした。

イ) 会場内

日本で言えばプロ野球の球場の様な雰囲気です。会場の外は連日小雪が舞い散り外での運営はできません。しかし会場内はお土産、軽食売り場はもちろん、試合観戦中の客席までビールを売りにくるほどです。従って、観客は1時間以上前から会場入りして、試合開始までの時間を楽しんでいます。

ウ) 会場の盛り上げ

大会マスコット「サタン」（熊本で言えば「くまモン」）が会場内で観衆を盛り上げます。特にタイムアウト時などは、コート内を走り回り、観客にウェーブをあおる、大砲で景品を2階席まで打ち上げる、客と写真を撮るなど、試合が終わるまでファンサービスに努めていました。また、民族衣装を着た10名ほどの楽団が生演奏で地元の曲や軽快な音楽で盛り上げていましたので、常に会場は大声援に包まれ、まるでお祭りのようでした。

エ) 日本に対する応援のありがたさ

予選ラウンドでもアイスランド、クロアチア、マケドニアは応援団が多く、ビールを片手に軍団の応援で圧倒されそうでしたが、日本はそのような団体はありませんでした。しかし、ダグル・シグルドソン監督の故郷アイスランドからも沢山応援に来てくれて、必勝の鉢巻きで日本を応援してくれました。そんな中、欧州勢と体格が違う中で、スピード感溢れる日本チームの好ゲームには、外国人からも大きな声援を得るようになり、特にスペイン戦などは会場が日本の応援一

色になるような場面もあり、大変ありがたく感じました。ミュンヘンの日本領事の方々、また在ミュンヘンの日本の子供たちも応援に来てくれて大変力強く、深く感謝している次第です。

オ) サービス

おもてなしとボランティア活動が非常に行き届いていました。会場内の要所にはボランティアがいてADカードをチェックしており、簡単に自由な行き来ができないようにセキュリティはしっかりとしていました。また、驚いたことが2つありました。1つは、車での会場出口からホテルまでの送迎です。三菱自動車がオフィシャルサプライヤーとして4会場に車を提供、選手と離れて会場に残って他の協会役員と交流した後も、ボランティアのドライバーさんがホテルまで送ってくれるサービスがあり、雪の中での送迎は大変助かりました。2つ目がVIPルームです。大会関係役員用に別途150名ほど入れる大きな部屋があり、ドリンクと食事もでき、かつスクリーンが2-3基設置されており、生で試合を見ることができました。民族衣装を着たスタッフが給仕、シェフ達が食事を皿に盛ってくれるなど、至れり尽くせりでした。このVIPルームを観戦チケットとセットで売り出しており、これを購入した一般客も中に入っていました。

カ) テレビ放映

今回IHFからのネット配信もあり、日本の皆さんも自宅で試合を見ておられた方も多かったと思いますが、ホテルに帰ると昼間でも2つのチャンネルで試合放映をしていました。翌朝のニュースでも取り上げられており、関心の高さを感じました。

③選手のホテル環境

インドネシアでのアジア大会は食事、部屋など選手にとっては厳しい条件だったようですが、今回は一流のホテルが用意され、毎日専用部屋でのバイキングスタイルで朝昼晩の食事を摂ることができ（同じメニューなので少し飽きました）、またホテル地下にはトレーニングルームも完備され、毎日雪が降り、外出もできずに体調管理が難しい中でも、ホテルの環境は素晴らしく助かりました。また、試合の無い日の練習会場については、日程、時間の関係で当初の場所で練習できなくなっても、緊急の場合を見越してか、予備の練習会場も用意されており、そこで急遽練習することも出来ました。その対応と施設面で選手のストレスがないことも驚きでした。

2か国会場で大会切符は延べ80万枚売れ、過去の世界大会の記録を塗り替えた大会でした。

今年11月末から熊本で女子世界選手権が行われます。それに向けて、今回の大会運営は大変参考になりました。

④結び

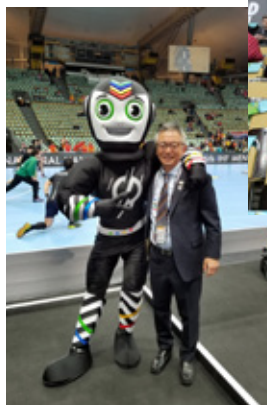
大会で1勝を挙げるができなかったのは悔いが残りましたが、この日のために選手は12月11日から国内で合宿、年末年始はポーランド、スイスでそれぞれ大会に出場し、本番を迎えました。40日に及ぶ長い戦いでした。欧州勢に当たり負けしない強いフィジカル、ここ一番の勝負強さを培うには国際経験が必須です。その中で、スペイン、アイスランドなど、過去には大差で敗れた相手に「あと一步」というところまで試合を展開し、スペイン戦でGK甲斐選手が、またバーレーン戦では元木選手が負けたチームからその試合の最優秀選手に選出されるなどの快挙もありました。欧州と戦えるところまで来ているという自信はもってくれたと思います。来年の東京オリンピックには欧州に勝つところまで持って行きたい所存です。引き続き応援の程よろしくお願い申し上げます。末筆になりましたが、スポンサー各社をはじめ、関係者の皆様のご支援、ご声援に深く感謝申し上げます。



シングルソン母国からきた
応援団



地元ボランティアの子供たち



大会マスコットの「スタン」と在ミュンヘン日本人会の子供たちです。試合後疲れているのに選手が来てくれてサインしてくれてました。

The Analysis report of the Men's National team (Training camp in Poland, Switzerland and World Championship 2019)

Head coach of the Men's national team,
Dagur Sigurdsson



The preparation PART 1:

- ・ term : 11.12.2018 ~ 25.12.2018
- ・ location : ANTC

First part of the preparation for the World Championship was in Tokyo, Ajinomoto National Training Center. Our main focus was to have all players healthy going into the WM in Munich, To give our players best possible recovery-time (21 hour) we decided to make one training per day. Combining interval running, power and quickness training with handball. I could feel right away that our team was in very good condition and had a very good focus on the task in hand. It was great to see player like Tamagawa and others had worked hard on their condition. We worked a lot on our tempo (passing in the buildup of attack) that is very important against strong teams so that passing mistakes don't come on top of difficult shoots and technical mistakes. The only negative thing for us at this time was that our GK Sakai broke his finger shortly before departing, extremely disappointing for him after a very good work with our GK coach Antek.

The preparation PART 2:

- ・ term : 28.12.2018 ~ 29.12.2018
- ・ location : 【Poland】 4Nations Cup (Japan, Poland, Czech, Rumania)
- JPN 25 (13-11, 12-14) 25 Poland
7MTC (3-4)
- JPN 27 (13-13, 14-12) 25 Czech

After 3 weeks we flew to a tournament in Poland (the

世界選手権 2019 報告

日本代表監督
ダグル・シグルドソン



世界選手権に向けた準備について①

- ・ 期間 : 12月11日～25日
- ・ 場所 : ANTC

世界選手権に向けた第1弾の準備は東京・味の素ナショナルトレーニングセンターにて実施しました。我々の大きな関心は、すべての選手が万全の状態の世界選手権の舞台であるミュンヘンに向かうことでした。そのため、トレーニングは1日1回とし、選手にはリカバリーの為に十分な時間(21時間)を与えました。インターバル走やパワー系・スピード系トレーニングをボールトレーニングと組み合わせました。チームのコンディションはとても良い状態でした。玉川選手(大崎電気)をはじめ、多くの選手がコンディションの維持向上に懸命に取り組んでくれました。また、我々は強豪国と対戦する際に非常に重要な要素となる攻撃時のテンポ(攻撃を組立てる際のパス)の向上に大きな時間を割きました。精度の低いパスに起因する難しい体勢でのシュートや、テクニカルミスに繋がらないことに取り組みました。唯一の悲しい出来事は、坂井選手(豊田合成)が欧州遠征出発直前に指の骨を骨折してしまったことです。彼はアンテック GK コーチと共に、とても意欲的にトレーニングをしていましたので彼の離団は非常に残念でした。

世界選手権に向けた準備について②

- ・ 期間 : 12月28日～29日
- ・ 場所 : 【ポーランド】 4Nations Cup (日本・ポーランド・チェコ・ルーマニア)
- 日本 25 (13-11, 12-14) 25 ポーランド
7MTC (3-4)
- 日本 27 (13-13, 14-12) 25 チェコ

約3週間の国内合宿の後、我々はポーランドに向かいトーナメントに出場しました(昨年も同トーナメントに出場しました)。初戦の対戦国はホームチームのポーランドで、5000人の観客がポーランド代表に声援を送っていました。

試合は大変素晴らしい内容で結果は同点でした(7MTCにより敗戦)。私はチームのパフォーマンスには大変満足でした。ハイテンポで且つ巧みに戦術を駆使して我々の強みを生かしました。これらは我々に次の試合に向けて大きな自信を与えました。また、翌日も試合が控えており連戦となりましたが、世界選手権を迎える我々にとって大変良いリハーサルとなりました(世界選手権でも同様に連戦となります)。次の試合も欧州強豪国の一つチェコ代表でした。

same one like last year). Our first game was against the home team Poland with 5000 supporters cheering them on. We played a fantastic game and made a draw with them (but lost in 7m shoot out). I was very happy with our performance, high tempo and clever tactic using our strengths. This gave us a confidence boost for the next game. A very good preparation for us to play day after day (as this would happen in WM as well). Next game was against Czech, also a very strong team. We could rotate the team and play with full strength, power and speed. Fantastic win and a strong team performance.

The preparation PART 3:

- ・ term : 26.12.2018 ~ 06.1.2019
- ・ location : 【Switzerland】 Yellow cup (Japan, Switzerland, Portugal, Tunisia)
JPN 28 (15-14, 13-14) 28 Switzerland
JPN 31 (15-17, 16-17) 34 Tunisia

Now we flew to Swiss to take part in a 4 team tournament, Yellow Cup is a old (47.) established tournament in Europe and very well organized. We could use the fantastic facilities in the days before for training. The team was in a very good condition and we played our first match against the home team again with 1700 fans. Swiss has a very strong / young team but we played in our routine way. I think we should have won the game but the performance was very good. Next game was against Tunisia who were also preparing for the WM (12 plz). Game was tight but unfortunately we did not manage to take the extra step to win. We lost with 3 goals. Our performance was again stable and I was positive about the performance. Our last game is against Portugal and we started very good with great handball but then came a black out and we did not score for a long time so that we were 6 goals behind at halftime. But we came back fighting and were only 2 goals behind, but Portugal was too strong in the end and won with 2 goals. Nice comeback but not good enough overall. Most important was that we had finished a good preparation we had no new injury but lot of confidence and moral.

After this we took a bus from Swiss to Munich were our Group will play. Sadly in a training session Hozuki felt a break (stress fracture) in his foot and had to withdraw from the squad.

前日の試合とは選手を入替え、懸命にパワーとスピードを持ってプレーしました。その結果、大変素晴らしい勝利を収めました。

世界選手権に向けた準備について③

- ・ 期間 : 2019年1月4日～6日
- ・ 場所 : 【スイス】 Yellow cup (日本・スイス・ポルトガル・チュニジア)
日本 28 (15-14, 13-14) 28 スイス
日本 31 (15-17, 16-17) 34 チュニジア

その後、我々はスイスに舞台を移し、4カ国対抗戦・イエローカップに参戦しました。イエローカップは47回目を迎えた歴史のある大会で、運営も素晴らしく組織化されていました。また、大変素晴らしい施設も完備されており、我々はそれらをカップ戦前のトレーニングで活用することができました。チームは大変良いコンディションを維持しており、カップ戦初戦は1700人の観客の中、ホームチームのスイス代表でした。スイス代表は強く、また若いチームでもありましたが、我々はいつも通りの自分たちのプレーをしました。勝利が可能な試合でしたが（結果は同点）、パフォーマンスはととても良いものでした。次の試合は、我々同様に世界選手権を控えるチュニジア代表（後に世界選手権12位）との対戦となりました。ゲームは接戦となりましたが、残念ながら我々は勝利を手にすることができず、3点差での敗戦となりました（31対34）。我々のパフォーマンスは安定していましたが、私は前向きでした。そして、イエローカップ最後の試合はポルトガル代表でした。試合序盤は大変良いスタートを切りましたが、その後失速して長い間得点することが出来ず、6点差でハーフタイムを迎えました。後半、闘争心を取り戻し2点差まで詰め寄りましたがポルトガル代表も終盤に強さを発揮し2点差でポルトガル代表の勝利となりました。後半になり良く持ち返しましたが、全体的には十分な試合内容とは言えませんでした。ただ、一番大切なことは、世界選手権に向けて新たな怪我や負傷者を出すことなく良い準備をして、且つ自信とモラルを得ることでした。

イエローカップの後、我々はバスでスイスから世界選手権のグループリーグが開催されるミュンヘンに向かいました。ここで、大変残念なことに東長濱選手（大崎電気）が練習中に足の違和感を訴え（疲労骨折）、チームから離脱せざるを得ない状況となりました。

世界選手権 2019

グループ B 第1戦

マケドニア 38 (18-13, 20-16) 29 日本

近年、常に世界のトップ9-15位に位置しているマケドニア代表。世界的に著名で38歳の今もなおチームの中心として活躍する Kiril Lazarov 選手（HBC Nantes）を擁します。また、他にも GK の Borko Ristovski 選手（S.L. Benfica）、Stojanche Stoilov 選手（RK Vardar）、Dejan Manaskov 選手（Telekom Veszprém）など素晴らしい選手を擁するチームです。監督の Raul Gonzalez 氏は現在パリ・サンジェルマンの監督も務めています。この試合は我々にとって、とても大きなチャレンジでした。最も大きな課題は、重量ポストプレーヤーにスペースを与えることなく、強力なシュート力を持つバックコートプレーヤーを止めることでしたが、経験豊富な

World championship 2019

Macedonia:

Have been in top 9-15plz in the last years. Everybody knows Kiril Lazarov now 38 years old but still going strong. But also great players like GK Borko Ristovski, Stojanche Stoilov and Dejan Manaskov, Coach by Raul Gonzalez now with PSG Paris. This was a huge challenge for us. The biggest problem is to stop the great shooters in the backline without opening space for the very heavy pivot players. Macedonia played with a lot of experience in finding the pivot players. All together it was a good performance, but we showed sign of stress in the first game.

Croatia:

One of the strongest teams in the world and almost in the top 4plz every time. With Domagoj Duvnjak as the superstar and the experienced Lino Cervar back as head coach. It was shocked to start in a very bad way. This put us into a pressure situation. We came back strongly but it was not enough.

Spain:

Also one of the world elite team, at the very top for the last two decades. Mix of old and young, now with the brothers Alex and Dani Dujšebaev. The new coach is Jordi Ribera. I think we learned a lot from the game against Croatia, because we started and played in a very clever way from start. The first half was totally amazing and Kai had an unbelievable performance in goal. In this moment we saw how important it is that we continue to cooperation with Antek and our GK. We had a bad spell in the beginning of the second half but other then that it was our best performance.

Iceland:

Iceland is building up a new team, but still have great players like Aron Pálmasson and Björgvin Gustavsson and the very experienced Gudmundur Gudmundsson as a coach. After loosing against Iceland with 17 goals we were eager to show a better performance. We played a fantastic game, that was open until the end. I was really proud of our performance in this game and felt that we were ready to beat Bahrain in next game.

Bahrain:

Already four times in a row they went to the finals

マケドニア代表は、ポストプレーを多用してきました。ゲーム全体としては、良いパフォーマンスを示すことができたが、初戦の固さが垣間見えた試合となりました。

グループ B 第 2 戦

クロアチア 35 (18-13, 17-14) 27 日本

世界最強国の一つに挙げられるクロアチア。彼らは常に世界のトップ4に位置しています。スーパースターの Domagoj Duvnjak 選手 (THW Kiel) や、過去何度も監督としてクロアチアを世界一に導き、再び監督として戻って来た Lino Cervar 氏を擁します。ゲームはとても悪い立ち上がりでした。これにより、我々はプレッシャーのかかる状況となりました。その後、持ち直しましたが充分ではありませんでした。

グループ B 第 3 戦

スペイン 26 (10-11, 16-11) 22 日本

スペイン代表も直近の20年間、世界トップの実力を有しているチームです。ベテランと若手が融合し、Alex Dujšebaev 選手 (PGE Vive Kielce) と Dani Dujšebaev 選手 (PGE Vive Kielce) の兄弟を擁します。監督は Jordi Ribera 氏です。我々は前節のクロアチア戦から多くのことを学びました。この試合、スタートから非常にクレバーなプレーをしました。前半を通して本当に素晴らしい内容でした。甲斐選手 (GK・トヨタ車体) も大変素晴らしいパフォーマンスを見せてくれました。今後も Antek GK コーチと日本人選手 (GK) が協働し続けることの大切さを認識しました。後半スタートの際、リズムの悪い時間帯がありましたが1試合を通じて我々のベストパフォーマンスを発揮できたと思います。

グループ B 第 4 戦

日本 21 (12-13, 9-12) 25 アイスランド

アイスランド代表は、現在新しいチームを作り上げている途中で。しかし、今もなお、Aron Pálmarrsson 選手 (FC Barcelona Lassa) や Björgvin Gustavsson 選手 (GK・Skjern Håndbold)、また、大変経験値の高い Gudmundur Gudmundsson 監督 (リオオリンピック優勝監督・デンマーク代表) を擁するチームでした。前回、我々がアイスランド代表と対戦した際は17点差で敗戦していたので、今回我々はより良いパフォーマンスを示すことを熱望していました。試合は開始直後から終了まで大変素晴らしい内容でした。私は日本代表選手のパフォーマンスを誇りに思いましたし、次のバーレーン戦に向けて勝利する準備が出来ていると感じました。

グループ B 第 5 戦

バーレーン 23 (10-9, 13-13) 22 日本

バーレーン代表は、アジアにおける直近の4大会に連続で決勝進出しているチームです。また、私の友人でもあるアイスランド人の Aron Kristjánsson 氏が監督を務めています。このゲームで我々は大変良いプレーを続けましたが終盤に失速してしまい、さらに、試合終了間際に失点し敗戦となりました。これは心理的に大きなショックでした。我々はこの敗戦から十分に気持ちを切り替え、調子を取り戻すことが出来ずにプレジデントカップを迎えることに

of Asian Championship and now again coached by Icelandic friend Aron Kristjánsson. In this game we played very well until we broke down totally and lost the game in last second. This was mentally a very big shock for us and in my opinion we did not recover from this soon enough to be fit for the games in presidents cup.

Unified Korea.:

Historical team of unified Korea. In my opinion we should have won this game as well as the game against Bahrain. But we were not mentally strong enough. We will work on this with our team staff as well as the staff from JOC.

The positive thing is that we are getting to same handball level as Bahrain and Korea and we have a young team that can stay together for a long time.

Angola:

Our players gave everything into this game. It was not enough. We were mentally still not strong enough and in this game we also lost the physical fight against very strong shooters. Our GK did not have a good day. Bitter end to the tournament, which started strongly but got weak in the end.

All together this was a fantastic period. Our best games so far. But I'm extremely disappointed that we did not manage to win 1-3 games. This is possible. But we have to continue and START NOW, because the qualification for next WM '21 will be at the Asian Championship. We must look to Brazil (Olympics 2016) that played Presidents cup in '07, '09' and '11 took the next step in '13, '15 and '17 by breaking into top 16 and now went on for 9plz.

Let's continue our way!

なってしまったと思います。

プレジデントカップ (21位 -24位決定戦)

日本 25 (14-12, 11-15) 27 統一コリア

今大会、南北統一コリアチームが結成されたことは歴史的でした。私の意見としては、この試合もバーレーン戦同様に我々が「勝てるゲーム」でした。しかし、我々はバーレーン戦後調子を取り戻せずに、心理的にも十分な状態ではありませんでした。今後、JOCの専門家の意見も取り入れ、メンタルの側面からも選手たちをサポートしていきたいと思っています。

ポジティブな事柄としては、現在、我々日本代表はバーレーン代表や韓国代表と同等のレベルまで成長してきたこと。また、我々は若い選手が多いチームですので、今後、長い時間を共有し成長することができると思っています。

プレジデントカップ (21位 -24位決定戦)

日本 29 (14-15, 15-17) 32 アンゴラ代表

選手は懸命に戦い抜きましたが充分ではありませんでした。我々は調子を充分に取り戻すことができず、また、この試合でも相手の強力なシューターに対してフィジカル面でも問題を抱えました。そして、GK陣にとっても良い日ではありませんでした。

今世界選手権、グループリーグでは内容の良い試合を重ねましたが、終盤は悔しさが残る試合となりました。

全体を総括すると、今大会は素晴らしい時間となりました。チーム発足以来、ベストな内容の試合をすることができたのではないかと思います。しかし、勝ち切れなかったことを非常に残念に思います。我々は出来ます。勝利は可能です。しかし、今からスタート、そして継続しなければいけません。なぜならば、次の「世界選手権2021」の予選となるアジア選手権が1年後に待ち構えているからです。

ブラジルを見てみましょう（彼らも我々同様2016年リオオリンピックでホスト国でした・7位）。彼らは2007年、2009年、2011年の世界選手権ではプレジデントカップでプレーし（19位、19位、21位）、そして、2013年、2015年、2017年の世界選手権ではトップ16入りを果たし、遂に今回は9位と躍進しました。

我々も今後さらに邁進していきます！

多彩なフィールドで、フロンティアを目指しています。

大同特殊鋼の素材は、暮らしや産業を支える多彩な製品や部品に使われています。
私たちはこれからも、素材の力で新たな価値創造に貢献していきます。

DAIDO STEEL GROUP
Beyond the Special



外からは見えませんが、骨のある会社です。

 **大同特殊鋼**

世界選手権を終えて

男子日本代表主将 信太 弘樹

はじめに、沢山の方々のご協力があり、今回の世界選手権に出場できたことを大変感謝しています、ありがとうございます。そして、会場まで足を運んでくださった皆様、ライブ配信を観てくださった皆様、彗星 JAPAN を応援してくださった皆様、本当にありがとうございました。

ワイルドカードとして出場できた今大会、結果は1勝もすることができず24位で大会を終えました。東京2020に向けて、強化の上ではとても重要な今大会でしたが、結果を出す事ができず、悔しい気持ちと不甲斐ない気持ち、そして申し訳ない気持ちです。代表チームは結果が全て、内容の良いゲームをしても勝たなければ意味がない、それは重々承知です。もちろん、選手、スタッフ全員がしっかりと受け止めています。しかし、今大会は内容も大事にしたいと考えています。なぜなら、「強化」として考えた時、チームとしても個としても得たものが沢山あったからです。

予選ラウンド初戦のマケドニア戦、序盤は GK のファインセーブもあり、そのリズムが攻撃にも出ていたものの、中盤からマケドニアはポストプレーを多用し、日本は反則、退場、7mT を許してしまい前半を5点ビハインドで終了。後半、日本がオフensiveな DF に変えるとマケドニアの攻撃リズムが乱れ、日本は3点差まで追いつきました。しかし、マケドニアは7人攻撃を展開。大型のポスト2人をうまく使いながらスペースを攻められてしまいました。日本は速攻、クイックスタートで得点を重ねていきますが、7人攻撃を守ることができず徐々に離されてしまい29対38で試合終了。失点が多く、DFの修正が必要だと感じました。特に大型ポストに対する守りが課題となりました。

2戦目のクロアチア戦、日本は序盤、OFトラブルから相手に速攻で得点されてしまい10分で1対7と苦しい展開に。その後日本は7人攻撃で粘りをみせ13対18で折り返しました。後半に入り追いつきたい焦りから単調な攻撃になってしまいました。また後半の立ち上がりも悪く、最大10点差まで広げられてしまい、その後はクロアチアにゲームをうまくコントロールされてしまいました。27対35とマケドニア戦に続き失点が多く、前半、後半ともにスタートの10分が悔やまれる内容でした。

3戦目は、ヨーロッパ予選を1位通過のスペインと対戦。日本はマケドニア戦とクロアチア戦の反省を生かし、戦術を変更。速攻を止め、試合のテンポを落とすことにしました。前半は GK のピックセーブと時間を使った粘りの OF で1点リードして終了。後半、立ち上がりに連続失点を許し4点差となるも、日本は慌てることなく自分たちの戦い方を徹底。最後まで食らいつきましたが、決定的な場面でのシュートミスが響き22-26で敗戦。負けはしましたが、強豪国であるスペインに対して自分たちの戦い方を徹底すれば、ここまで戦えるという自信と今後の戦い方のベースとなる戦術を確立することができ、収穫の多い試合となりました。

4戦目のアイスランドは、1年前に試合をして25対42で負けた相手。1年でどこまで自分たちが成長したか試される試合でもありました。日本は、5-1と6-0のミックスDFでスタート。

ミーティングで話し合った通り DF は機能し、失点を抑えることができました。前半は一進一退の攻防が続き、12対13とアイスランドが1点リードで終了。後半、1点差で食らいついている状況の中、私がレッドカードで退場してしまいリズムを失ってしまいました。しかし、そのまま崩れていくことはなく再び追いつけた日本でしたが、最後に3連取を許し21対25の4点差でタイムアップ。バックチェックからの DF が重要とチームとして徹底できていたことで失点を抑えられていたと思います。そして、この1年での成長を感じることができた試合となりました。

5戦目はバーレーンと対戦。同じアジアであることもあり、この1年間で5回対戦するも1回も勝っていない相手。攻撃的なバーレーンに対し日本は、5-1DFでスタートし、相手のリズムを崩すことに成功。日本のペースで試合を進めていきました。前半は1点負けで折り返しましたが、後半15分には19対14と5点リードしました。しかし、その後日本は7mTのチャンスなどを決めることができず、徐々にバーレーンに流れが変わっていき、残り40秒で同点にされてしまいました。同点でも5位が決まる日本でしたが、パスを回して同点を狙うのか、1点取りに行き勝ちを狙うのか、チームとして考えを統一できていなかった我々は攻撃を失敗し、ラスト3秒で相手にゴールを奪われてしまい敗戦。リードしている時の戦い方、時間の使い方という課題を再発見した試合となりました。

最後の攻撃の際、自分の一言で意思統一ができていたはずだと思うと「なぜその一言が出なかったのか？」と自分に腹が立ち、後悔しかありません。

結果、予選リーグで1勝もすることができずプレジテントカップ（順位決定戦）へ。チームの雰囲気は停滞していました。選手ミーティングをし、予選は勝つことができなかったが、「残り2試合を勝利してより良い順位で日本に帰ろう。」「それが応援してくれる方々に対して今できること。」と、今の状況を把握した中で、「最後まで全員で前向きに行こう。」と決めて望んだ順位決定戦でしたが、統一コリアに25対27、アンゴラに29対32と敗戦。

「勝ちたかった。」

予選から内容の良い試合が続いただけに「勝利が欲しかった。」というのが正直な自分の気持ちです。しかし結果が全てです。この結果を受け入れ、今大会、自分たちは何ができ何ができなかったのか、今何をしないといけないのか、何をすべきなのか、考えて行動する。これからが大事です。チームとして戦い方のベースは確立されたと思います。あとはより細かいところを作り上げていき、明確となった課題を修正して、「今大会の負けがあったから東京で勝つことができた。」と言えるようにしたいです。

最後に、いつも彗星 JAPAN を応援して下さっている皆様、今大会は勝利の報告をできず申し訳ありませんでした。しかし、東京2020に向けての光も見えたと感じています。ファン、サポーターの皆様と共に喜びを分かち合えるように頑張っていきます。これからも熱い応援を、彗星 JAPAN を宜しく願い致します。

戦 評

■予選リーグ (グループ B)

日本 29 (13 - 18、16 - 20) 38 マケドニア

第26回男子世界選手権大会ドイツ、デンマーク大会のグループBの初戦は、ドイツ・ミュンヘンにて開催された日本対マケドニアであった。

開始早々に日本は渡部のカットインで先制、その後も GK 久保のファインセーブが続き、素晴らしい滑り出しであった。ところがマケドニア STOILOV のポストプレーに対する反則退場や 7mT を許し、厳しい試合展開となってしまう。キャプテン信太らのテンポのいいプレーで反撃するが、前半は 13 対 18 と 5 点のビハインドで終了した。

後半、日本は攻撃的な 6 : 0 ディフェンスに変えて、ポストの守りをはっきりさせる策に出た。すると明らかにマケドニアの攻撃のテンポが崩れ、日本の流れで試合が進み始め、吉野らの得点で追い上げを見せて、後半 7 分 18 対 21 と 3 点差に詰めた。しかし、マケドニアは 7 人攻撃を展開、MNASKOV のサイドシュートなどで傾きかけた流れを日本に与えない。7 人攻撃の交代の隙をつき、速攻やクイックスタートで成田、笠原らが得点を挙げていく日本であったが、中盤以降マケドニアも日本ディフェンスに対応し、LAZAROV のパスさばきからスカイプレーやポストプレーを効果的に決めていった。終盤には焦りから攻撃が単調になった日本は逆速攻を許してしまい、29 対 38 の 9 点差での敗戦となった。

失点が多く、点差こそ開いてしまったが、緊張した試合展開であり、マケドニアもメンバーを落とすことなく戦い抜いたことを考えると、これまでのトレーニングの成果が発揮され、初戦としては手応えのある内容であった。

日本 27 (13 - 18、14 - 17) 35 クロアチア

世界選手権グループB、日本の2戦目は過去の世界選手権・オリンピックで優勝経験のあるクロアチアとの対戦。

立ち上がりに日本は、クロアチアディフェンスのプレッシャーからか、積極的に縦に攻めることができず、得点をあげられないところを、STRLEK の速攻などで失点を重ねてしまい、10 分で 1 対 7 と一方的な試合展開となった。タイムアウト後 7 人攻撃に切り替えた日本は、信太の巧みなパス回しからチャンスを作り、徳田らの得点でリズムを取り戻していった。その後、ディフェンスも機能し始め、速攻からノーマークを作ったが、GK・SEGO に再三阻まれ、13 対 18 の 5 点のビハインドで前半を終了した。

後半立ち上がりで追い上げたい日本は、東江のカットインで先制、GK 甲斐が当たり、リズムをつかんでいった。しかし、ここで後半から代わった GK・STEVANOVIC のキーピングに阻まれ、得点できずに逆速攻を許してしまい、10 分には 14 対 24 と 10 点差とされてしまった。吉野、門山らの得点で追い上げをはかるも、STEPANCIC のロングシュート、MANDIC のサイドシュートなどで点差を詰めることができなかった。終盤土井の活躍により 27 対 35 の 8 点差で終了することができたが、前半、後半ともにスタートの 10 分が悔やまれる試合であった。

ディフェンスは間を崩されることが少なく、ポストにも対応できたことは収穫であり、攻撃もテンポよく攻めた時はディフェンスを揺さぶっていた。明日はヨーロッパチャンピオン・スペインとの戦いである。勝ち点を取りに行きながらも果敢にチャレンジし、更なる収穫を得たい。

日本 22 (11 - 10、11 - 16) 26 スペイン

第3戦目の相手は、本大会ヨーロッパ予選1位のスペインとの対戦。前日のクロアチア戦の成果と課題を活かし、いかに密集して守り失点を最少限に抑えるか、粘り強くワイドに攻める攻撃を目標とし、各自が「今できることに集中」できるかをテーマに試合に臨んだ。

そのテーマに集中した日本は、立ち上がりからディフェンスが機能し、スペインにプレッシャーをかけ続けた。渡部や元木が得点する間に GK 甲斐がファインセーブを連発、10 分経過時は 3 対 1 とリードを奪った。その後両 GK の好セーブからロースコアで一進一退の攻防が続くが、戦術を徹底しテクニカルミスを減らした日本が、徳田のパスフェイントからの得点で抜け出し、11 対 10 と 1 点リードで前半を折り返した。

後半開始直後、スペインは ENTRERRIOS らの得点で逆転、開始 7 分には 16 対 12 となった。しかし、ここで慌てずにディフェンスを徹底し GK 甲斐との連携を取り続けた日本は、東江らの得点により 2 点差に詰める。その後も会場

戦 評

一杯に響き渡るジャパンコールの中、宮崎らの得点で追いかけたが、スペイン CANELLAS の力強いシュートなどを決められて点差を詰めることができず、22対26の4点差で破れた。

決定的な場面のシュートミスや、速攻の場面での押し切る力強さなど、まだまだ課題の残る部分もあるが、世界のトップを相手に自分たちのプレーを信じて徹底することの大切さを学ぶとともに、今後の日本代表の戦い方のベースとなる試合内容であった。次の試合でも日本代表のなすべきプレーを目指し、さらなる成長を狙った戦いを続けていく。

日本 21 (12 - 13、9 - 12) 25 アイスランド

グループB日本の4戦目は、シグルドソン監督の出身国でもあり、オリンピックやヨーロッパ選手権でメダル獲得の実績を持つ強豪国アイスランドとの対戦。約1年前に対戦した時は25対42の17点差で大敗した相手であり、この試合で日本の成長を実証したい一戦である。

日本は成田をトップに据えた5:1と6:0ディフェンスを併用するプランでスタートした。開始早々、渡部の力強いプレーでアイスランドのキープレイヤー PALMARSSON を退場させたものの、その直後に日本も退場してしまい、なかなかリズムがつかめず、7分経過時点では2対5とリードを許してしまう。この場面からディスタンスシュートを中心に早打ちで攻めるアイスランドに対し、日本のディフェンスが機能し始め、失点を抑える。その間に門山のディスタンスシュートや吉野のカットインが決まり、28分には一度は逆転に成功する。しかし、テクニカルミスから速攻で GUDJONSSON に再逆転シュートを決められ、12対13の1点差で前半を終了した。

後半、成田や宮崎らの速攻で1点差のまま食らいついていたが、速攻の戻りの中で不運にも信太がレッドカードで失格となってしまい、リズムを失っている間に SIGURMANSSON のサイドシュートなどで残り10分には18対21の3点差とされてしまう。しかし、ここで崩れないのが今の日本チーム。東江のゲームメイクから吉野、渡部が2連取し、残り6分には再び1点差に詰め寄った。その後、タイムアウトをとったアイスランドが PALMARSSON らで3連取し4点差とされ、その点差のまま21対25でタイムアップとなった。

チャンスでのシュートミスやテクニカルミスからの逆速攻などは悔やまれ、勝てるチャンスがあった試合であった。しかし、スピード抜群で超攻撃型のアイスランドに対し、バックチェックからのディフェンスとGKの連携が機能した上での25失点は評価できる。十分にこの1年間の成長を感じさせる内容であった。

日本 22 (9 - 10、13 - 13) 23 バーレーン

本大会予選リーグ5試合目は、同じアジア代表であるバーレーンとの一戦。この1年間で5回対戦し、いずれも敗戦しているがここで一矢を報いて5位でプレジデントカップに進みたい一戦であった。

スタートから東江をトップに据えて、組織的なディフェンスから速攻で押し切る攻撃的な策がバーレーンを苦しめ、バーレーンのエース ALSAYYAD に得点を許さず日本ペースで試合が進んだ。しかし日本も得点の流れが悪く優位に立てない。その中、渡部や吉野の得点で21分に逆転に成功。しかし終盤、タイムアウトを取ったバーレーンに BASHAM らの得点で再逆転されてしまう。その後もGK久保が7mTを止めるなど、相手の流れを潰すが、日本もミスを重ねてしまい、9対10の1点ビハインドで前半を終了する。

ハーフタイムに、もっとシンプルに強気で攻撃することを確認した日本は、渡部の2連取に始まり元木の速攻などで加点する。バーレーンの7人攻撃も死守し、後半14分過ぎには19対14と5点のリードを奪った。しかしここから試合巧者のバーレーンは、ALSAYYADを中心に個人技を駆使し、ジリジリと日本を追い上げる。日本も強い縦への攻撃を徹底し、7mTを獲得するが、このチャンスを活かすことができず、残り40秒で同点に追いつかれてしまう。ここで渡部が強気の1対1でディフェンスを抜き去るも、ゴールポストに弾かれてしまった。このまま同点でも5位が決定する日本だったが、バーレーン MERZA のステップシュートが残り3秒で決まり、22対23の1点差で逆転負けを喫した。

試合の流れを制し、苦手とするバーレーンを上回るプレーを見せたが、最後まで諦めずに個人が持ち味を発揮したバーレーンの気持ちに押し込まれる残念な結果となってしまった。これで予選リーグ6位となり、プレジデントカップに臨むが、これまでヨーロッパ勢相手に見せた成果と、この試合で学んだ代表としての強い気持ちをさらに強めて、まずは次の韓国戦で勝利を掴みたい。

戦 評

■ 21 位～24 位決定戦

日本 25 (14 - 12、11 - 15) 27 コリア

予選リーグを6位で終えた日本は、デンマーク・コペンハーゲンに移動し、21位～24位の順位決定戦（プレジデントカップ）に臨んだ。相手はグループA6位、 코리아との対戦となった。

前半5：1ディフェンス、部井久をトップに置き攻撃は左バック、信太を2枚目ディフェンスからセンターに起用する布陣からスタートした。立ち上がり早々、不運な退場が2つ続き、リズムに乗れない日本であったが、フットワークを生かしたディフェンスやGK甲斐の好セーブ、吉野の得点で互角のスタートを切った。20分過ぎから土井、成田の3連取で11対7の4点差をつけて流れをつかんだが、その後シンプルに1対1から攻めてくる 코리아 KANG TとKANG Jに押し込まれる形で失点。前半は14対12の2点リードで折り返した。

後半、 코리아は、日本ディフェンス2枚目の外側にポストを置く攻撃を起用してきた。日本はそれにうまく対応できず、退場や7mTにより失点してしまう。また、チャンスにも 코리아 GK・PARKにセーブされてしまい、10分経過時には16対17と逆転を許した。しかし、そこから土井が素晴らしい集中力を見せて得点。7人攻撃も機能し、東江の得点で残り10分、再び逆転に成功した。その後どちらも譲らず、一進一退の攻防が続くが、残り2分 코리아の切れ味鋭い1対1から7mTを与えてしまい、これをJOが2本連続で決め、27対25の2点差で敗退した。

8月のアジア大会において韓国とは2試合をして「引き分け」と「1点差敗退」であった。今回の試合も内容的には日本が勝利できる試合であった。しかし終わってみると退場7回、7mT7本による失点となってしまう、流れをつかめず試合が進んでいったことが残念でならない。この大会最後の対戦はアフリカ代表アンゴラ。ワイルドカードでつかんだ世界挑戦へのチャンス、2020東京に向けた新たなスタートとなるようチャレンジ精神で全力で臨む。

日本 29 (14 - 15、15 - 17) 32 アンゴラ

第26回男子世界選手権大会ドイツ・デンマーク大会、日本の最終戦は23～24位決定戦、アフリカ代表アンゴラとの対戦となった。アンゴラはグループD最下位ながらアジア1位のカタールを倒すなど、台風の目になった存在である。

前半立ち上がり、今大会ほとんどの試合で日本の最初の得点をあげている渡部のロングシュートが決まり幸先の良いスタートを切った。しかし、その後は互角の展開。日本のディフェンスも笠原らで粘り強くプレッシャーをかけ、相手のロングシュートを守るが、中盤以降クロスプレーからのロングシュートをSIBOに的確に決められ、終盤に13対14と逆転を許す。その後、信太のカットインなどで反撃に出るが、前半は14対15の1点ビハインドで終了した。

後半5：1ディフェンスに変更し、センター門山・GK佐々木を投入。ディフェンスでより前にプレッシャーをかけることと、シンプルな縦への攻撃を仕掛けていった。テンポのいいパス回しから元木、門山、部井久で得点を重ねるも、PESTANAの切れ味鋭いシュートやHEBOのクレバーなプレーで失点を許してしまう苦しい展開。これ以上離されると厳しい場面で、ディフェンスで激しくコンタクトを取る日本。GK佐々木も2本のカットインを止め、3点ビハインドをキープしたまま粘り強く食らいつく。しかしアンゴラは、5：1ディフェンスの裏を使う巧みなポストプレーや二次速攻を展開、日本は対応に苦しみ、残り10分には22対28と6点差に広げられてしまう。それでも諦めない日本は、7人攻撃を仕掛ける中、土井や信太で追い上げ、残り2分2点差まで追上げるが、時すでに遅く29対32の3点差で試合が終了した。

ワイルドカードで得た世界選手権へのチャンス。その最終戦を勝利で終わることができず、24位に終わり大変残念であった。しかし、この大会に向けたシミュレーションとして年末年始に出場したカップ戦や、本大会の予選リーグにおいてヨーロッパの強豪国相手にしっかりと戦い抜き、これまでの取り組みの成果を示せた。ただ大会期間10日間で7試合、世界の強豪国と戦う精神的・体力的なタフさ、選手層や戦術の徹底と変化への対応力に関して、経験が足りない面が垣間見えたのも事実である。シグルドソン監督からは「この世界を知っているのは、ここにいる日本代表の我々だけなのだから、日本リーグやその他の大会において何らかのアクションを起こし、日本のハンドボール界に刺激を与えて欲しい」という締めくくりで本大会を終えた。試合後たくさんの選手が涙していた。この世界選手権の思いは今後の戦いで見せてくれるだろう。

2019 男子世界選手権ドイツ・デンマーク帯同メディカル報告

帯同ドクター 沖本信和

帯同トレーナー 飯田純一郎 林知希

1. 国内合宿

12/11 より ANTC にて国内合宿開始。

12/19 ドーピング教育を行った。参加選手 22 名の中でドーピングコントロールの経験がない選手はわずか 1 名であった。

- ①ドーピングの概念、権利と義務について概説した。
- ②最も重要であるのは、いかなる薬剤・サプリメントも慎重に摂取すべきで、リスクの分散（必ず、資格を持つ医師や薬剤師に相談すること）が重要であることを強調した。さもなければすべて選手個々の自己責任になってしまうことを伝えた。
- ③医療施設で施された注射や薬剤については、選手個々がドーピング対象であることを受診する時に伝えること、その内容をメモしておくことが選手を守るための証拠になること、知り合いからや自己判断で手に入れたサプリメントや薬に関してはすべて自己責任になってしまうリスクが高いこと等を警告した。
- ④内容によっては、風邪薬、のど飴、湿布ですら危険性があることも伝えた。
- ⑤最も重要なのはチームドクターに、頻繁に報告連絡相談することであることを認識していただいた。

代表クラスの選手達は、正確な知識を持っているものの、一般的には何となくとかまあいいかという安易な判断が危険であるため、今後もチームドクターとして気軽な報告連絡相談に心掛けて行きたい。

国内合宿最終日に 1 名の選手が手指骨折にて離団することになった。所属チームとの連携で早急な手術となった。極めて残念ではあるが早期復帰を祈念します。一方で、代わりに選手を所属チームが数時間内に派遣していただき羽田空港で合流しポーランド遠征に間に合った。代表チーム、日本協会、派遣元所属チームの連携がしっかりしていると感心した。

2. 海外合宿・国際試合

12/25 ポーランドに出発し、Nations Cup にて 12/28 には地元ポーランド、12/29 にはチェコ共和国と国際試合を行った。

12/30 スイスに移動し、Yellow Cup にて 1/4 地元スイス、1/5 チュニジア、1/6 ポルトガルと対戦した。

ポーランド、スイスでのいずれの国際大会参加でも強豪国ナショナルチームと多くの試合を重ねることができた。重要な強化策であり、このようなマッチメイキングができることは素晴らしいと思えた。

海外移動時にはマスク装着、選手にはイソジンうがい義務付けた。遠征中に打撲、捻挫、裂創（縫合処置）、発熱、感冒、腹痛、歯痛の選手が数名発生したが、十分な薬剤準備（いつも迅速正確に対応していただいている JISS 上東様、日本協会床尾様、原田様、医事委員会 佐久間先生、貝沼先生に深謝申し上げます）で対応可能であった。毎回の遠征でもあるように、関節障害、筋腱障害にて関節穿刺や注射による治療も数回行った。代表クラスではこのような注射に頼らざるを得ない治療が多いことは特徴である。さらには飯田・林トレーナーの 2 名帯同の充実した体制でコンディショニングやケアが行き届いていたことも特筆すべきである。

スイス滞在中 20:00 頃にホテルの自室で競技外ドーピングコントロール（3 名）が行われた。こころがけていたので、特に問題なく終了した。いずれは尿検査だけでなく採血も行われるものと推測する。いずれにしても、今後もドーピングコントロールは競技外で多く行われることが予想され本大会だけでなく今回のような大会直前合宿にもドクター帯同が必須であると再認識した。

1/7 世界選手権 B グループ会場のミュンヘンに移動した。ミュンヘンでの練習中に 1 名の選手が足部捻挫し、直ちにスポーツクリニックのレントゲンチェックを行い、中足骨骨折の診断で離団帰国、早期手術となったことは残念であった。早期復帰を祈念いたします。

生活環境はすべて申し分ないものの、冬季・乾燥については十分な感染予防が必要であり、部屋においてはうがい、手洗い、加湿に注意した。ドリンクについても、個別認識できるように心がけた。

3. 世界選手権

1/11 より世界選手権 B グループはドイツ・ミュンヘン会場で開幕した。予選リーグは、マケドニア、クロアチア、スペイン、

アイスランド、バーレンであった。

練習・公式戦において、打撲、捻挫、切創、裂創が生じたが、ベンチ入り飯田トレーナー、コート外林トレーナー、沖本ドクターの連携で適切な処置ができた。

試合前には関節内注射やトリガー注射、テーピング、ストレッチを、試合後にはアイシングを行った。些細なことではあるが、試合後にはロッカールームの清掃をスタッフ・選手で行なった。大会運営事務局から称賛をいただいたとのことであった。

ホテルではアイシングやマッサージ、物理療法、内服・外用薬などで毎日コンディショニングを行った。トレーナー二人体制であったので、十分なケアができたものとする。

大会終了後、選手個々は所属チームに帰る際に、かかりつけ医療機関やチーム関係者あてに紹介状や、現在かかえている障害に対し今後の治療方針などについて説明や依頼、処置や注射、投薬などを行った。

〈謝辞〉

選手全員を学生時代から良く知っていたこと、傷害の状況も把握できていたことや、メディカルスタッフの飯田・林両トレーナーと連携がスムーズであったこと、ドーピング検査経験済みの選手ばかりであったことは幸いであった。

海外までお越しいただいた日本協会湧永会長、帯同していただきお心遣いいただいた福地副会長・田口強化本部長に深謝申し上げます。

毎回のことながら国際大会の様々な手続きにご尽力いただいた日本協会の原田さん、床尾さん、NTCの河上さんをはじめとした多くの日本協会関係各位の方々に深謝申し上げます。

ファミリーとして戦ってきたダグル監督、舍利弗・アンテック・北林コーチ、吉田分析スタッフ、飯田・林トレーナー、信太キャプテン、一緒に戦った選手達、骨折で悔しい思いで離団した選手達、選考過程で外れた選手達に敬意を払います。

そして、いままで日本ハンドボールに携わって来られた多くの役員、代表スタッフ、ファンの尽力に深謝するとともに、全日本男子ハンドボール代表チームが皆様の期待に添える様に、チームとして苦勞を乗り越えて明るい結果と未来を切り開くように精進したいと考えます。



第26回男子世界選手権

男子世界選手権過去の大会結果

回数	開催年月日	開催地	参加国数	日本順位	優勝	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	11位	12位	13位	14位	15位	16位	17位	18位	19位	20位	21位	22位	23位	24位	
1	1938/2/5-6	ドイツ	4	×	ドイツ	オーストリア	スウェーデン	デンマーク	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
2	1954/1/11-17	スウェーデン	6	×	スウェーデン	ドイツ	チェコスロバキア	スイス	デンマーク	フランス	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
3	1958/2/27-3/8	東ドイツ	16	×	スウェーデン	チェコスロバキア	ドイツ	デンマーク	ポーランド	ノルウェー	ハンガリー	ユーゴスラビア	フランス	アイスランド	オーストリア	スペイン	ルーマニア	フィンランド	ブラジル	ルクセンブルグ	-	-	-	-	-	-	-		
4	1961/3/1-12	西ドイツ	12	1〇12位	ルーマニア	チェコスロバキア	スウェーデン	ドイツ	デンマーク	アイスランド	ノルウェー	フランス	ユーゴスラビア	スイス	オランダ	日本	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
5	1964/3/6-15	チェコスロバキア	16	2〇16位	ルーマニア	スウェーデン	チェコスロバキア	西ドイツ	ソ連	ユーゴスラビア	デンマーク	ハンガリー	アイスランド	東ドイツ	ノルウェー	スイス	フランス	エジプト	アメリカ	日本	-	-	-	-	-	-	-		
6	1967/1/12-21	スウェーデン	16	3〇11位	チェコスロバキア	デンマーク	ルーマニア	ソ連	スウェーデン	ドイツ	ユーゴスラビア	ハンガリー	東ドイツ	フランス	日本	ポーランド	ノルウェー	スイス	チェコ	カナダ	-	-	-	-	-	-	-		
7	1970/2/26-3/8	フランス	16	4〇10位	ルーマニア	東ドイツ	ユーゴスラビア	デンマーク	ドイツ	スウェーデン	チェコスロバキア	ハンガリー	ソ連	日本	アイスランド	フランス	ノルウェー	ポーランド	スイス	アメリカ	-	-	-	-	-	-	-		
8	1974/2/28-3/10	東ドイツ	16	5〇12位	ルーマニア	東ドイツ	ユーゴスラビア	ポーランド	ソ連	チェコスロバキア	ハンガリー	デンマーク	ドイツ	スウェーデン	ブルガリア	日本	スペイン	アイスランド	アルジェリア	アメリカ	-	-	-	-	-	-	-		
9	1978/1/26-2/5	デンマーク	16	6〇12位	西ドイツ	ソ連	東ドイツ	デンマーク	ユーゴスラビア	ポーランド	ルーマニア	スウェーデン	ハンガリー	スペイン	チェコスロバキア	日本	アイスランド	ブルガリア	カナダ	フランス	-	-	-	-	-	-	-		
10	1982/2/23-3/7	西ドイツ	16	7〇14位	ソ連	ユーゴスラビア	ポーランド	デンマーク	ルーマニア	東ドイツ	ドイツ	スペイン	ハンガリー	チェコスロバキア	スウェーデン	スイス	キューバ	日本	クウェート	アルジェリア	-	-	-	-	-	-	-		
11	1986/2/25-3/8	スイス	16	×	ユーゴスラビア	ハンガリー	東ドイツ	スウェーデン	スペイン	アイスランド	ドイツ	デンマーク	ルーマニア	ソ連	スイス	韓国	チェコスロバキア	ポーランド	キューバ	アルジェリア	-	-	-	-	-	-	-		
12	1990/2/28-3/10	チェコスロバキア	16	8〇15位	スウェーデン	ソ連	ルーマニア	ユーゴスラビア	スペイン	ハンガリー	チェコスロバキア	西ドイツ	フランス	アイスランド	ポーランド	韓国	スイス	キューバ	日本	アルジェリア	-	-	-	-	-	-	-		
13	1993/3/9-20	スウェーデン	16	×	ロシア	フランス	スウェーデン	スイス	スペイン	ドイツ	チェコスロバキア	アイスランド	デンマーク	ルーマニア	ハンガリー	エジプト	ノルウェー	オーストリア	韓国	アメリカ	-	-	-	-	-	-	-		
14	1995/5/7-21	アイスランド	24	9〇23位	フランス	クロアチア	スウェーデン	ドイツ	ロシア	エジプト	スイス	チェコ	ベラルーシ	ルーマニア	スペイン	韓国	キューバ	アイスランド	チェコ	アルジェリア	ハンガリー	スロベニア	デンマーク	クウェート	アメリカ	モロッコ	日本	ブラジル	
15	1997/4/17-5/1	日本・熊本	24	10〇15位	ロシア	スウェーデン	フランス	ハンガリー	アイスランド	エジプト	スペイン	韓国	セルビア	リトアニア	チェコ	ノルウェー	クロアチア	キューバ	日本	チェコ	アルジェリア	イタリア	ポルトガル	中国	サウジアラビア	アルゼンチン	モロッコ	ブラジル	
16	1999/6/1-15	エジプト	24	×	スウェーデン	ロシア	ユーゴスラビア	スペイン	ドイツ	フランス	エジプト	キューバ	デンマーク	クロアチア	ハンガリー	チェコ	ノルウェー	韓国	アルジェリア	ブラジル	モロッコ	マケドニア	クウェート	中国	アルゼンチン	サウジアラビア	ナイジェリア	オーストラリア	
17	2001/1/23-2/4	フランス	24	×	フランス	スウェーデン	ユーゴスラビア	エジプト	スペイン	ロシア	ウクライナ	ドイツ	クロアチア	チェコ	アイスランド	韓国	アルジェリア	ノルウェー	アルゼンチン	ポルトガル	スロベニア	チェコ	ブラジル	グリーンランド	サウジアラビア	モロッコ	クウェート	アメリカ	
18	2003/1/20-2/2	ポルトガル	24	×	クロアチア	ドイツ	フランス	スペイン	ロシア	ハンガリー	アイスランド	セルビア	デンマーク	ポーランド	スロベニア	ポルトガル	スウェーデン	チェコ	エジプト	カタール	アルゼンチン	アルジェリア	サウジアラビア	クウェート	オーストラリア	ブラジル	モロッコ	グリーンランド	
19	2005/1/23-2/6	チェコ	24	11〇16位	スペイン	クロアチア	フランス	チェコ	セルビア	ギリシャ	ノルウェー	ロシア	ドイツ	チェコ	スウェーデン	スロベニア	デンマーク	エジプト	アイスランド	日本	アルジェリア	アルゼンチン	ブラジル	アンゴラ	カタール	クウェート	カナダ	オーストラリア	
20	2007/1/19-2/4	ドイツ	24	×	ドイツ	ポーランド	デンマーク	フランス	クロアチア	ロシア	スペイン	アイスランド	ハンガリー	スロベニア	チェコ	チェコ	ノルウェー	ウクライナ	韓国	アルゼンチン	エジプト	クウェート	ブラジル	モロッコ	アンゴラ	グリーンランド	カタール	オーストラリア	
21	2009/1/16-2/1	クロアチア	24	×	フランス	クロアチア	ポーランド	デンマーク	ドイツ	ハンガリー	スウェーデン	セルビア	ノルウェー	スロバキア	マケドニア	韓国	スペイン	エジプト	ルーマニア	ロシア	チェコ	アルゼンチン	アルジェリア	キューバ	ブラジル	クウェート	サウジアラビア	オーストラリア	
22	2011/1/13-30	スウェーデン	24	12〇16位	フランス	デンマーク	スペイン	スウェーデン	クロアチア	アイスランド	ハンガリー	ポーランド	ノルウェー	セルビア	ドイツ	アルゼンチン	韓国	エジプト	アルジェリア	日本	スロバキア	オーストリア	ルーマニア	チェコ	ブラジル	チリ	バーレーン	オーストラリア	
23	2013/1/13-27	スペイン	24	×	スペイン	デンマーク	クロアチア	スロベニア	ドイツ	フランス	ロシア	ハンガリー	ポーランド	セルビア	チェコ	アイスランド	ブラジル	マケドニア	ベラルーシ	エジプト	アルジェリア	アルゼンチン	サウジアラビア	カタール	韓国	モンテネグロ	チリ	オーストラリア	
24	2015/1/17-2/1	カタール	24	×	フランス	カタール	ポーランド	スペイン	デンマーク	クロアチア	ドイツ	スロベニア	マケドニア	スウェーデン	アイスランド	オーストリア	エジプト	チェコ	ブラジル	チェコ	ベラルーシ	ロシア	イラン	サウジアラビア	チリ	アルジェリア	-	-	
25	2017/1/11-29	フランス	24	13〇22位	フランス	ノルウェー	スロベニア	クロアチア	スペイン	スウェーデン	ハンガリー	カタール	ドイツ	デンマーク	ベラルーシ	ロシア	エジプト	アイスランド	マケドニア	ブラジル	ポーランド	アルゼンチン	チェコ	サウジアラビア	チリ	日本	バーレーン	アンゴラ	
26	2019/1/10-27	デンマーク/ドイツ	24	14〇24位	デンマーク	ノルウェー	フランス	ドイツ	スウェーデン	クロアチア	スペイン	エジプト	ブラジル	ハンガリー	アイスランド	チェコ	カタール	ロシア	マケドニア	チリ	アルゼンチン	セルビア	オーストリア	バーレーン	サウジアラビア	コリア	アンゴラ	日本	
27	2021	エジプト																											
28	2023	ポーランド・スウェーデン																											




mind

豊かな明日を切り開く、大崎マインド。

限られた資源だから、有意義に使っていききたい。

命あるものたちが共存する地球だから、

快適な環境を守っていききたい。

計測・制御の専門メーカーとして時代をリードする大崎は、

ユニークな発想と探究心で省エネ、省力化機器など、

つねに技術革新をこころがけています。

大崎電気工業株式会社

本社 〒141-8646 東京都品川区東五反田2-10-2 東五反田スクエア TEL.(03)3443-7171(代表)



第70回日本選手権大会 (男子の部)

開催期間 2019年1月29日～2月3日
開催地 熊本県・山鹿市
会場 山鹿市総合体育館、山鹿市鹿本体育館

最終順位 優勝：豊田合成 (JHL)
準優勝：トヨタ車体 (JHL)
3位：大崎電気 (JHL)
大同特殊鋼 (JHL)



第70回日本ハンドボール選手権大会(男子の部)を開催して

熊本県ハンドボール協会理事長 奥園 栄純

去る1月29日から2月3日までの間、熊本県山鹿市の山鹿市総合体育館と鹿本体育館において日本リーグ所属9チーム、学連推薦2チーム、各ブロック代表13チームの計24チームが参加し、日本ハンドボール界の頂点を競う第70回日本選手権大会(男子の部)を本県で開催することができました。

1月に男子世界選手権大会がドイツとデンマークで開催された関係で、例年12月に男女同時に開催する大会を別々に開催することになり、12月末に大阪で開催された女子の部に続き、熊本で男子の部を開催することになりました。日本協会が主催する最も権威のある大会を熊本県で開催できましたことに心から感謝しております。

2019年は皆様方ご承知のとおり、本年、熊本県ではこの日本選手権に加え、8月4日から9日まで全国高等学校総合体育大会、11月30日から12月15日まで女子世界選手権大会を開催し、まさしくハンドボールの「ビッグイベントイヤー」となる大変重要な年であります。その幕開けにこのような権威のある大会を開催することができたことを大変光栄に思っております。

しかしながら、熊本では昨年末の11月30日から12月9日にアジア・オセアニアの10ヶ国が参加し、本年熊本で開催する世界選手権大会の予選を兼ねた第17回女子アジア選手権大会を開催し、その関係で本大会の準備が後手に回ってしまい、関係者には大変ご心配とご迷惑をお掛けいたしました。日本協会や九州協会関係者のご支援やご協力により何とか滞りなく大会を開催することができました。

本大会には3連覇を狙う大崎電気の岩本真典監督、トヨタ自動車東日本の中川善雄監督他、熊本県出身の監督・選手も数多く出場しており、県内関係者にとってはとても楽しみな大会となりました。また、大会の対戦方法もブロックや学連から勝ち抜いたチームが日本リーグ勢に挑む形式であり、1回戦から接戦となる見応えのある試合が多く展開されました。

2回戦からは会場が本年、世界選手権を開催する山鹿市総合体育館1会場となり、世界選手権に向けて県が購入したタラフレックスを借用し、敷設して大会を実施しました。初めて県協会関係者と世界選手権大会事務局関係者だけで敷設、撤去作業を実施し、今後、県内で開催する各種大会でもタラフレックスを敷設する足がかりとなりました。

また、本県関係者では学生界の覇者大阪体育大学の中心選手であり千原台高校出身の原田大夢選手が活躍し地元新聞にも写真入りで大きく取り上げられ、日本リーグチーム

入りも内定しているとのことで、今後の活躍に大いに期待を膨らませたところです。

3回戦からは全試合が日本リーグ勢との対戦となり、ブロック・学連代表が日本リーグチームにどのような試合を展開するかに興味注がれました。全試合とも白熱した試合となり、学生やクラブチームの健闘が光る中、男子ハンドボール界の名門湧永製薬が敗れるという大波乱があり、日本リーグ入りを目指す東京ライスターズの勢いと、男子ハンドボール界の実力が伯仲していると感じました。

大会第4日目の準々決勝では昨年度日本リーグのプレーオフに進出した上位4チームが登場し大会も大いに盛り上がってきました。各試合とも見応えのある好ゲームでしたがシード4チームが貫録勝ちし、準決勝に駒を進めました。

準決勝では3連覇を狙う大崎電気が前半からペースをつかむことができず、前半1点リードで折り返したものの、豊田合成が後半早々逆転し、そのまま逃げ切り国内4大会で初の決勝進出を決めました。一方のトヨタ車体と大同特殊鋼は前半からトヨタ車体がリードし、そのまま逃げ切りました。

最終日の決勝戦は豊田合成とトヨタ車体の愛知県のトヨタ対決となりましたが、試合は終始合成のペースとなり車体が追い付こうとすると合成が突き放すという展開で、最後まで勝利に対する執念が途切れなかった合成が念願の初優勝を遂げました。この大会において合成は多くの応援団が熱い声援を送り、選手と関係者の気持ちが重なった感動的な初優勝となりました。

今大会を通じ、男子日本ハンドボール界の勢力地図の変化や実力が拮抗しお互いに切磋琢磨しレベルアップしている現状がよくわかり、2020東京オリンピックやポスト2020に向け大いに期待が持てる大会となりました。

また、これまで幾度となく日本協会の主催大会を開催させていただきましたが、これまで以上に大会に対する財政的な支援や運営に対するアドバイス等をいただき、湧永会長、田口専務理事、担当の工藤常務理事等多くの日本協会関係者の皆様方と熊本県協会関係者が協働して準備、運営できた大会はなかったのではないかと感じています。この場をお借りし、深く感謝申し上げます。

先に述べましたとおり本年度、熊本県はビッグイベントを控えており、日本全国の多くのハンドボール関係の皆様方にご支援、ご協力をいただくことが多々あると思いますが、お力添えいただきますようよろしくお願い申し上げます。大会の報告とさせていただきます。



写真提供：スポーツイベント社

優勝：豊田合成ブルーファルコン

豊田合成ハンドボール部監督 田中 茂

第70回日本選手権大会において初優勝を飾ることができました。創部44年目にして初の日本一のタイトルを獲得できたこと、豊田合成創立70周年の節目である年に、同じく第70回大会となる日本選手権で優勝できたことを、とても嬉しく思います。これもひとえに、日頃から支えていただいておりますファンや関係者の皆様のご支援、ご協力、応援があったからこそその結果だと思えます。この場をお借りし、チームスタッフ一同、心より感謝申し上げます。そして何より、日本一を目指して厳しい練習に耐えてきた選手達を本当に誇りに思います。

今大会に備え、日本リーグ前半戦の試合分析を行い、いくつかの修正点の中から特にディフェンスの強化（失点の多さ）に対し多くの時間を費やしてきました。今のチームにどのようなディフェンスが合っているのか、またGKセーブ率を上げるためにはどうしていくべきかを考え、日々徹底的に取り組んできました。

大会前には主力選手の怪我など不安要素もありましたが、初戦である準々決勝では、強化してきたスピーディーでアグレッシブなディフェンスからの速攻が決まり、いいスタートが切れたこと、準決勝ではこれまで勝てなかった相手に勝てたこと、初舞台である決勝戦にチームとして勢いをもって挑めたこと、その勢いを自分たちの力と信じて戦い切ったこと、その結果として優勝という最高の成績を収めることができたと考えています。

引き続き意識を高め、切磋琢磨しながらチーム目標であります日本リーグ制覇に向け更に力をつけ、突き進んでいきたいと思っておりますので、今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、第70回日本選手権大会を開催するにあたりご尽力いただいた熊本県ハンドボール協会、日本ハンドボール協会、ならびに大会を運営、支えていただいた関係各位の皆様にご改めて感謝、お礼申し上げます。

豊田合成ハンドボール部キャプテン 小塩 豪紀

大会にて創部初の優勝を収めることができました。1975年に創部して以来、長きに渡りサポートいただいた会社や地域の方々、そして日頃より応援して下さる皆様のおかげだと思っております。改めて感謝申し上げます。

今大会は【絶対に優勝する】という強い気持ちをチーム全員が持ち一致団結して戦い抜けたこと。その気持ちが粘り強いディフェンスからの速攻の持ち味を發揮させ初タイトルに繋がったと思っています。

そして、今まで未知の世界であったステージを経験出来たことは我々にとって多くの自信と経験を得ることが出来ました。

ただ、この優勝は通過点に過ぎません。ブルーファルコンの歴史に優勝というページを1ページでも多く刻めるよう、この自信と経験を活かしより強いチームになっていきたいと思っております。

まずは今シーズンの目標である日本リーグ優勝ができるように田中監督のもと、チーム一丸となって戦っていきます。これからも豊田合成ハンドボール部ブルーファルコンをよろしくお願いいたします。

戦評

◆準決勝 豊田合成 23 (14-12、9-10) 22 大崎電気

豊田合成・水町の中ドルシュートで幕を開けたこの試合、序盤は豊田合成がウーゴを中心とした積極的なディフェンスからボールを奪うと、素早い速攻で大崎電気を先行する展開に。一方の大崎電気は、司令塔の岩永を軸に多彩な攻撃を仕掛けるものの、要所でのシュートが豊田合成 GK 藤戸の好守に阻まれ、なかなか豊田合成を捉えられない。それでも、18分過ぎから元木、信太の連続得点で同点に追いつく。しかし、豊田合成はすかさずタイムアウトで一呼吸おくと、大橋のポストシュート、ウーゴの7mTで、大崎電気を突き放す。ここで、大崎電気は宮崎を投入して攻撃に変化を加える。すると、またも信太、元木の連続得点で再び同点に追いつく。しかし、豊田合成は、GK 藤戸の好セーブから趙の速攻で勝ち越しに成功、前半を2点リードして終了する。

豊田合成は、前半終了直前の退場で苦しい立ち上がりとなるが、開始早々に大崎電気も退場者を出してしまう。豊田合成は、広がった大崎電気ディフェンスのスペースを突き、ポストシュート2連取などで、リードを4点に広げる。流れに乗り切れない大崎電気は、パスがうまくつながらない。豊田合成は、GK 藤戸の好セーブで流れに拍車をかけると、素早い速攻で18分には、この試合最大の6点リードに広げる。一方の大崎電気も、途中出場のGK 東が再三の好セーブでチームを盛り上げると、次第に落ち着きを取り戻していく。21分からは時村のカットインを皮切りに怒涛の5連取で、残り5分には22対23の1点差まで詰め寄る。その後互いにチャンスを迎えるがモノにすることができない。残り30秒で大崎電気はタイムアウトをとり、最後の1チャンスにかけるが、豊田合成が必死に守り切り、初の決勝進出を果たした。



3点共 写真提供：スポーツイベント社

◆準決勝 トヨタ車体 29 (13-11、16-9) 20 大同特殊鋼

大同特殊鋼・尹の先制点でスタート。トヨタ車体の速攻及びサイドシュートを大同特殊鋼 GK 久保が連続好セーブで凌ぎ、開始5分で1対1のロースコアな展開。トヨタ車体は高智の連続得点などで10分までに3対2とリードするが、大同特殊鋼は尹の7mTを含む3得点で15分までに5対5の同点に追いつく。その後は、大同特殊鋼は尹の中ドルシュート、トヨタ車体は吉野の中ドルシュートや渡部のサイドシュートで一進一退の攻防が続く。25分過ぎから途中出場の石戸のカットイン、津屋の中ドルシュートで連続得点したトヨタ車体が、このリードを守り、2点リードして前半を折り返す。

開始早々トヨタ車体は吉野、高智の連続得点で点差を4点に、さらに吉野、津屋、杉岡の3連続得点で、後半7分で点差は6点に広がる。大同特殊鋼も尹が強烈なシュートを放つが、トヨタ車体 GK 甲斐の好セーブに阻まれる。その後も甲斐が好セーブを連発し、リズムに乗ったトヨタ車体は杉岡、渡部の両サイド、中央からは吉野が着実にゴールを決め、さらに点差が広がり、残り6分には11点の大量リードを奪う。その後トヨタ車体が立て続けに二人の退場者を出す。甲斐に代わって出場したGK 加藤が好セーブを連発、大同特殊鋼に反撃の糸口を掴ませない。結局、堅守と運動量で上回ったトヨタ車体が9点差をつけて大同特殊鋼に快勝、4年連続の決勝進出を決めた。

◆決勝 豊田合成 30 (16 - 12、14 - 14) 26 トヨタ車体

豊田合成が水町のカットインシュート、GKで藤戸の好セーブから速攻で加点すれば、トヨタ車体も高智のカットインシュート、渡部のサイドシュートで取り返す一進一退の攻防が続く。7分過ぎから、豊田合成がGK藤戸の3連続好セーブで流れを掴むと、樋口や趙のミドルシュートなどで10分までに7対3と試合の主導権を握る。その後もポストを有効に使う豊田合成、高智らバックプレイヤーのカットイン中心で加点するトヨタ車体が加点していく。一時はトヨタ車体が2点差まで詰め寄るが、退場者を出した際に豊田合成は樋口のみドル、ロペスのカットインなどでリードを広げ、豊田合成が4点リードして前半を終了する。

開始早々トヨタ車体は退場者を立て続けに出す苦しい展開。それでも、甲斐の好セーブと、7mTを2本止めた加藤の両GKの踏ん張りで何とか食らいつく。守りから攻撃のリズムが徐々に噛み合い、渡部の連続サイドシュートなどで、15分過ぎに20対21と1点差に迫る。対する豊田合成はGK藤戸の好守とディフェンス陣のフットワークでボールを奪うと、出村のサイドシュート、水町、趙の速攻などで3連取、21分過ぎには25対21と再びトヨタ車体を突き放す。やや焦りの見え始めたトヨタ車体のディフェンスが前のめりになると、その裏をPV橋本が素早い位置取りでポストシュートを放つ。トヨタ車体も、渡部のサイドシュート、吉野のミドルシュートなどで反撃するが、流れを変えることはできずタイムアップ。豊田合成が初の戴冠を決めた。最優秀選手は、好守に活躍した豊田合成・水町孝太郎が獲得した。



4点共 写真提供：スポーツイベント社

TOPICS

湧永製薬に競り勝ち、リーグ以外のチームとして8強入り

東京トライスターズ監督 横地 康介

①チーム発足の経緯

長年、東京にはハンドボールのトップチームが存在しておらず、首都東京で人々が高いレベルのプレーに触れる機会がとて少ないという現状です。

選手、ファンのボリューム、メディアの数も日本で No.1 の東京に、2020 年のオリンピックに合わせて、強く魅力的なチームが生まれることで、多くの人々、メディアの注目を集める存在となり、日本のハンドボール界の飛躍のきっかけにつながると考え、チームを発足させました。

②今大会を振り返って

今大会は、4月にチームとして活動をスタートするにあたり、ターゲットとしていた大会であり、今シーズン出場できる中で最も大きな大会でしたので、まずは出場権を獲得する事を念頭に置いておりました。

東京都の予選から関東学生一部リーグの法政大学、日本体育大学に勝たなければいけなかったこと等、我々のチームとしては厳しい条件でしたが、何とか勝つことが出来ました。

関東予選も突破でき、まずは出場権を獲得できてホッとしたことを記憶しております。

本大会の組み合わせが決まり、チームの目標としては日本リーグ所属チームと対戦することでした。その為には、一回戦の長崎社中、二回戦の福岡大学に勝たなければなりません。両チームとも情報はほとんどありませんでしたので、とにかく一戦一戦全力を尽くすことだけを考えて戦いました。

福岡大学戦については非常に厳しい試合でしたが選手が集中力を切らすことなく、60分間戦えたことが勝利に繋がったのだと思います。

目標にしていた日本リーグチームとの初の試合は湧永製薬となりました。相手は歴史ある日本のトップチームですので、とにかくチャレンジするのみでした。どんな展開になろうとも福岡大学戦と同様、60分間集中力を切らさず戦う姿勢を貫くよう選手に話をして試合に臨みました。

予想通り厳しい試合でしたがDFを中心に粘り強く戦い、何とか勝利することが出来ました。

この勝利は日本リーグを目指す我々にとって、非常に大きな意味のあるものであり、本当に勝てて良かったと思います。

今大会から来期加入予定の学生3名《三輪（早稲田大学）豊本、宮國（日本大学）》もチームの一員として参加してもらいました。3選手とも素晴らしい活躍でチームに勢いをもたらしてくれました。彼らが加わったことで既存メンバーとの競争意識が芽生え、チームとしての厚みが増し、今回の結果に大きく影響したと思います。

この結果に満足することなく、更なる高みを目指してチーム一丸となって頑張っていきたいと思います。

③今後の展開など

2020年の日本リーグ参戦を目指して引き続きチームを強化してまいります。その為には、多くの方々のご協力、ご支援が必要不可欠になります。

まだまだ環境は整っていない状況ではありますが、多くの方の悲願である東京に日本のトップチームを作るという夢の実現に向け、進んでまいります。

その為にはクラブチームとして、ハンドボールの価値を高めることを常に考え、多くの方の賛同を得られるような活動をしていかなければならないと考えております。

次世代の育成、地域貢献など今まで以上に活動の幅を広げ、活動していく予定です。

「ハンドボール×テクノロジー」実現に向けた取り組み

(公財)日本ハンドボール協会事務局長 清水 茂樹



ハンドボールがブレイクスルーするためのキーワードとして「ハンドボール×ビジネス」「ハンドボール×テクノロジー」「ハンドボール×エンターテインメント」の三本の矢を掲げ、昨年より湧永会長や田口専務理事の紹介を受けて様々な企業とディスカッションを重ねてきました。無人AIカメラはその中のひとつです。

日本選手権(男子の部)は毎年NHKでテレビ中継がありましたが、今年は男女別開催となったことで12月の女子の部が中継され、男子の部の中継予定がありませんでした。ここで何らかの従来とは違った新しい取り組みを打ち出したいと考えていた中、ウルトラ・スポーツ・プロダクション様で扱うPixellotの存在を知り、画期的なソリューションだなと興味を持ちトライアル撮影の実施に至りました。最初の提案を受けたのは12月18日で、その後JHLTVを配信してくれているヒューマンアカデミー様を交えて短期間で議論を重ね、何とかギリギリ間に合ったという感じです。

そもそもハンドボールの露出強化のためにインターネットでのライブ配信機会を増やしていきたいと考えていました。地方で開催されることが多いハンドボールの試合は、撮影スタッフの人員費に加えて移動費、宿泊費といった費用がどうしても嵩んでしましますが、無人AIカメラはこの点に優位性があります。また、インターネットでのライブ配信であれば、何らかの理由で見たくても見られなかった人が、電車の中や移動の合間でも見る事が可能となります。これは、従来のテレビ放送だけでは成し得なかったことで、現代の視聴者のライフスタイルにも合った観戦方法です。社会人選手権や国体など、今まであまり露出できなかった大会など、無人AIカメラを活用して配信機会を増やしていきたいと感じました。

また、今まで把握することが難しかった視聴に対する数字を取ることが出来たことも収穫のひとつです。大まかな数字ですが、Facebookのいいね!数が9,500人、ライブ配信を認識した人が8,000人、ライブ視聴者が合わせて1,500人といった感じでした。このようにFacebookでの告知のリーチ状況やライブでの視聴者の数字を把握することにより、自分たちが発信しているコンテンツ価値がどれ程の物であるか、客観的に知る良い機会となりました。この数字を1桁、2桁のレベルで上げていくにはどうするか、これをきっかけにまた新たなアイデアが生まれるイメージが湧きました。

私と長澤純平さんの日本協会の事務局員2名が音声を担当し

ましたが、実況経験がほとんど無いため聞き苦しい点が多々あったと思います。大変失礼いたしました。これで何をやりたかったのかというと、無人AIカメラと音声の相性を確かめることと、TwitterやYoutubeライブのチャット機能を使ったライブ配信ならではの双方向のコミュニケーションの可能性を探ることが目的でした。動画配信までの告知期間が短く、必ずしもポジティブな結果は得られませんでした。可能性はあると思っているので継続してトライしたいと思います。

無人AIカメラの性能面ですが、映像についても、タイムアウト時はコート上で動いているモップ係を追うなどたまに笑ってしまう映像もありましたが、無人で撮影しているとは思えない程安定したカメラワークでのクオリティを保っていました。1カメで撮影している映像、として捉えると違和感なく見ることが出来ました。また、オリジナルの撮影映像はコート全体を60分間網羅しており、戦術研究や審判講習用素材としても活用できるのではと様々な可能性を感じました。

最後に今後の展望ですが、「ハンドボール×○○」の三本の矢に関するものはどんどんやっていきますので何が出てくるかご期待ください。

まずは、今年11月から始まる熊本の女子世界選手権と2020年の東京五輪、そしてその後を見据えてハンドボールの裾野を広げる活動に注力していきます。1月の男子世界選手権を見て感じたことは「世界と戦える状況になってきてはいるが、やはりまだ差がある」ということでした。熊本の女子世界選手権、2020年の東京五輪で期待される結果を出すためには「圧倒的なホームアドバンテージ」をいかに引き出せるかも重要な要素となります。そのためには、協会として今までのハンドボールから一歩突き抜けた施策や発想が必要不可欠だと感じています。ハンドボールはまだまだ既存のファンの中だけでしか盛り上がっておらず、ファン層は横ばい状態です。しかし言い方を変えれば「十分な伸びしろがある」のですから、今後はライトなファンや他のスポーツのファンにもどんどんハンドボールの魅力を発信していきたいと思っています。2020年の東京五輪までに、全国各地で毎月のように様々な全国規模の大会が行われる予定です。その中で、コストパフォーマンスの良いインターネット配信をすることでコストを抑えつつ、より多くの方へアプローチが可能になると考えています。このための一つの方法として、無人AIカメラを今後もぜひ活用していきながら、ハンドボールファンの獲得に繋げて行きたいと思っています。



フィッティングを追及した軽量スピードモデル

GEL-FASTBALL 3

THH546 / 本体価格 ¥11,800+税




5001 インシグニアブルー x ホワイト



001 BLACK/SHOCKING ORANGE

7月中旬発売予定

 アシックスシューズのストライプデザインはアシックスの商標であり、世界の多くの国で登録された商標です。

本体価格は消費税抜きメーカー希望小売価格です。 ■商品についてのお問い合わせ先：アシックスジャパン株式会社お客様相談室 0120-068-806
■当社ホームページ [asics.com](https://www.asics.com) からもお問い合わせをいただけます。



Tokyo 2020 Gold Partner
(Sporting Goods)

理事会・全国理事長会議より

以下の会議にて、審議・承認・報告された主な事項です。

2018年度2月理事会

開催日：2019年2月16日(土)

場 所：AP市ヶ谷

審議事項：

- ①2019年度事業計画案＝承認
- ②2019年度予算案＝承認
- ③2019年度アンダー代表チームスタッフ＝承認
- ④コンプライアンス規程の改訂＝承認
- ⑤公認審判員規程の改訂＝承認
- ⑥肖像規程の改訂＝承認
- ⑦機密情報管理規定の制定＝承認

報告事項：

- ①役員候補者選考委員、評議員選考委員の選考について
- ②各本部(強化、競技、指導普及、広報マーケティング、JHL、東京2020)からの報告

2018年度2月全国理事長会議

開催日：2019年2月17日(日)

場 所：AP市ヶ谷

研修会

- ①スポーツ・インテグリティーに関する研修＝日本スポーツ振興センター

報告事項：

- ①2019年度事業計画、及び予算
- ②指導普及本部2018年度下半期活動状況
- ③東京2020進捗
- ④全国審判長研修会
- ⑤2019女子世界選手権＝熊本県協会より

あなたの元気を未来につなぐ
Wakunaga

**元気、やる気、
笑顔、湧く。**


キョーレオピン
KYOLEOPIN
LIQUID
「販売名」
キョーレオピンw

**滋養強壯
虚弱体質**

第3類医薬品


レオピン
「販売名」
レオピンファイブw



 湧永製薬株式会社
<http://www.wakunaga.co.jp/>

お取扱店のお問い合わせ **0120-39-0971**
(通話料無料) 受付時間 9:00~12:00・13:00~17:00 (土日祝日を除く)

2018年度NTSセンタートレーニング報告

NTS 委員長 古橋 幹夫

1 開催日時

U-16：1月4日～1月6日

U-13：1月12日～1月14日

2 会場

味の素ナショナルトレーニングセンター

3 参加者

- ・ NTS スタッフ（技術指導、運営、審判、トレーナー、情報分析他）
- ・ 学生サポートスタッフ
- ・ 講師等
- ・ 補助指導者
- ・ 選手 U-16 男子 39 名、U-16 女子 44 名
U-13 男子 30 名、U-13 女子 31 名
選手合計 144 名

4 NTS の変遷

NTS は、日本スポーツ振興センター（JSC）のスポーツくじ（toto・BIG）の収益金による助成金を中心に実施しています。2000 年から始まったこの事業も今年度で 19 年目を迎えました。

この事業は、歴代の担当者の努力によって、事業の目的である【選手の発掘育成 一貫指導の伝達 指導者育成 情報提供】において、各委員会が横断的に関わったり、多くの指導者が関わることによって細かい指導を提供できるなど、より実効性のあるものへと少しずつ変貌を遂げ、昨年度からは U-16（中 2～高 1）、U-13（小 6・中 1）のカテゴリー別の開催となりました。また、今年度新たに『未来の君たちへ』と題した 66 ページの冊子を運営委員会が中心となり作成され、参加者全員の顔写真や日程、各種研修資料などセンタートレーニングに必要なものがすべて冊子内に盛り込まれ、終了後も参考書として活用できる価値ある冊子が出来上がりました。

5 活動内容

2018 年度の NTS センタートレーニングは、各ブロックから選ばれた選手・推薦された指導者と NTS スタッフによって、U-16・U-13 とともに 2 泊 3 日のスケジュールで、開催いたしました。

トレーニングプログラムについては、ハンドボールの技能の習得にとどまらず、「ファンダメンタルスキル」やハンドボールに適した効果的な動きの習得のためにトレーナー一部会で考案された「ベーシックセブン」と「ベーシックセブンプラス（ストップ動作）」をトレーナーの方の指導

の下、実施しました。

また、ゲームでは国際審判員の方を招き、審判の視点も取り入れて指導を受けました。

【ハンドボールスキルトレーニング】

現日本代表やアンダーカテゴリーで課題となっている技術の基礎・基本の習得、技術の伝達、指導者の資質向上を図るため、指導内容策定委員会でそれぞれのカテゴリー別に内容を模索し、次のように策定しました。

U-16

〈DF スキルトレーニング〉

利き腕側を守ることを意識しながら攻撃を予測し、先手を取る駆け引きをしながらアグレッシブなディフェンスをねらいとしてトレーニングの実践を行いました。

- ① オフェンスとの間合いと利き腕側を守るフットワーク
- ② 縦の 2 対 2 で牽制やハードアタックのトレーニングをし、3 対 3 に発展
- ③ 中央 4 対 4 からサイドの切りでオフェンス有利な状況を牽制、連動、駆け引きを使い守る

〈OF スキルトレーニング〉

ディフェンスの動きに応じた状況判断ができるようにオフザボールの動きに重点を置き、数的有利な状況の発見や発掘ができることをねらいとしてトレーニングの実践を行いました。

- ① 3 対 3 のタッチハンドボールでオフザボールの動きの連動
- ② 3 人のパスでパス後のダッシュを意識し、素早い移動とポジショニング
- ③ ピボットとの縦の 2 対 2 でブロックプレーの習得
- ④ サイドの切りとピボットのブロックを使った 3 対 3 の状況判断
- ⑤ アグレッシブなディフェンスに対する中央の 4 対 4 で緩急やブロックプレーなど、質の高いオフェンスの継続

〈GK スキルトレーニング〉

ダイナミックなセービングを目指し、ディフェンスとの連動や指示、チアーアップなども含めてセーブ率を上げることをねらいとしてトレーニングの実践を行いました。

- ① GK の構えと素早いポジショニング
- ② シュートに対するアングルとダイナミックなセービング
- ③ ディフェンスとの連携
- ④ 速攻のパスまでの一連の動作の自動化

U-13



〈ベーシックセブンプラス〉



〈DF スキルトレーニング〉



〈ライフスキル (銘司氏)〉



〈開始式〉



〈アンチドーピング研修〉



〈国際審判員の講義〉



〈U-16 集合写真〉



〈U-13 集合写真〉



〈66 ページの冊子と参加記念品〉

〈DF スキルトレーニング〉

アタックを最重点課題として、その技術やフットワークの習得をねらいとしてトレーニングの実践を行いました。

- ①アタックやフットワークのファンダメンタルドリル
- ②ピボットを押し上げてからの1対1、3対3
- ③4対5の数的不利な状況での牽制、アタックの状況判断

〈OF スキルトレーニング〉

状況に応じた適切なパスキャッチスキルの向上と大きな動きのスローイングの動作を身につけ、数的有利な状況の発見や意図的な構築ができることをねらいとしてトレーニングの実践を行いました。

- ①距離に応じたパス
- ②片手キャッチと動きながらのパス
- ③シュートにつながる大きなモーションでのパス
- ④ピボットを使った2対2、3対3
- ⑤数的有利の発見、構築を目指したハーフ速攻2対2、3対3

〈GK スキルトレーニング〉

ダイナミックなセービングを目指し、ディフェンスとの連動を意識し、セーブ率を上げることをねらいとしてトレーニングの実践を行いました。

- ① GK の構えと素早いポジショニング
- ②ダイナミックなセービング
- ③予測とチャレンジ

麻生 薫さん、濱野健一さん、前田誠一さんを中心に、インストラクターとして各ブロックから推薦された指導者の方々のご協力をいただき、熱心な指導の下、充実したトレーニングを行うことができました。

各ブロック推薦指導者 (U-16・U-13 の順)

- ・北海道 藤井浩史さん、木戸浦史典さん
- ・東北 荒井啓貴さん、竹村啓汰さん
- ・関東 田口貴仁さん、田保橋光樹さん
- ・北信越 横野祐太郎さん、藤中 修さん
- ・東海 日比野起年さん、伊藤駿太さん (GK)
- ・近畿 大谷佳奈美さん、乙村直人さん
- ・中国 倉藤博之さん、前田孝典さん
- ・四国 田村敏明さん、石川文春さん
- ・九州 川野敦史さん、木村綾児さん

GK コーチの指導者のご協力をいただき手厚く内容の濃い指導ができました。

- ・GK コーチ 北野香代さん、河野裕光さん、小松理子さん、松村昌幸さん、上田芳久さん、濱口 靖さん、藤間かお

りさん、
 トレーナー部会から派遣されたトレーナーさんの指導で
 ベーシックセブンやベーシックセブンプラス、ウォーミン
 グアップ、クールダウンを行うことができました。

・ トレーナー部会 竹内いずみさん、岩谷美菜子さん、石
 丸裕美さん

最終日のゲームでは、審判委員会から国際審判員を派遣
 いただきました。

・ 国際審判員：本田昭太さん (U-16)、島尻真理子さん
 (U-13)

審判員のジャッジを行う基準を学び、実際にゲームのジ
 ャッジをしていただくとともに、国際レベルのゲームを踏
 まえて審判の目から見たアドバイスをいただき、選手にと
 って良い刺激となりました。

**【知識：知的スキルによってハンドボールに対する取り組
 みやアスリートとしてどうあるべきかを考えさせる】**

〈アスリートセミナー〉

銘苅淳氏による「アスリートライフスキル」の講義とワー
 ク

・ 選手の人格形成とメンタル強化を学びました。

貝沼圭吾氏、井本光次郎氏による「アンチドーピング研
 修」の講義

・ アンチドーピングの重要性と基本を学びました。

〈コーチングセミナー〉

銘苅淳氏による「アスリートライフスキル」の講義とワー
 ク

三輪一義本部長による「スポーツインテグリティ」の講義

麻生薫氏による「一貫指導の必要性」の講義

JADA による「アンチドーピング研修」の講義

指導者の方が選手に対するライフスキルの指導やスポー
 ツインテグリティ、一貫指導の必要性、アンチドーピング
 を学び、指導力の向上を図りました。

6 日程について

今回のセンタートレーニングは、U-16、U-13 のカテゴ

リーを1週間あけて実施するスケジュールでした。年々、
 NTS 運営委員会が充実し、事務処理や選手の誘導が大変
 スムーズに行われました。大学生の指導補助、運営補助、
 撮影補助も充実し、大きな力になっています。

昨今、日本のハンドボールに係る行事等が錯綜している
 中、スケジュール調整等では毎年頭の痛い問題となってい
 ます。ましてや小・中・高校生の選手・指導者が集まる形
 になり、大会を控えているチームが多い中、チームスタッ
 フの方のご好意、ご協力の下、開催できている現状です。
 特に中学生は、U-16 と U-13 の両方が対象になってい
 るので大会日程等を考慮して設定していきたいと思いま
 す。

7 今後のNTS

昨年度から U-16、U-13 というカテゴリー別のセンタ
 ートレーニングになりましたが、使用するボールサイズや
 松ヤニの使用についてなど、いろいろな課題が浮かび上が
 っています。また、発掘された選手に3日間で何を伝える
 かにも課題があります。それらの課題を一つひとつ解決し、
 世界基準の選手を発掘・育成し、2024年・2028年につ
 なげられるよう努力していきたいと思えます。また選手の
 発掘育成と同等に指導者の育成も重要課題であると思いま
 す。

今後も NTS は、日々変化していく世界のハンドボール
 スキルや戦術のトレンドをいち早くキャッチし、情報提供
 をしていきます。併せて、ハンドボールの日本スタイルと
 して忘れてはいけない普遍的なものを提供できるように、
 NTS 関連の委員全員で力を合わせていきたいと思えます。

最後に、センタートレーニングの実施にあたり、各プロ
 ックでのトレーニングにご尽力いただいた運営・技術指導
 スタッフの皆さん、並びに選手・指導者を派遣してくださ
 った所属チームの関係者の皆さん、NTS の運営に関わっ
 ていただいた方々に感謝の意を表します。



毎日、行きたくなる。
 わざわざ行きたくなる。

LECT

ようこそ、
 あなたの
 時間へ。

[LECT] 広島市西区扇二丁目1番45号 または lect.izumi.jp

株式会社イズミ <http://www.izumi.co.jp>

本社 〒732-8555 広島市東区二葉の里三丁目3番1号 TEL 082-264-3211 (代)



2018NTS センタートレーニング参加者名簿

【U18 男子名簿】

Table with 13 columns: No, 都道府県名, 選手名, フリカナ, 身長(cm), 体重(kg), ポジション, 利き手, 学年, 学校・チーム名. Lists 29 male athletes from various prefectures.

【U18 女子名簿】

Table with 13 columns: No, 都道府県名, 選手名, フリカナ, 身長(cm), 体重(kg), ポジション, 利き手, 学年, 学校・チーム名. Lists 33 female athletes from various prefectures.

【U16 男子名簿】

Table with 13 columns: No, 都道府県名, 選手名, フリカナ, 身長(cm), 体重(kg), ポジション, 利き手, 学年, 学校・チーム名. Lists 39 male athletes from various prefectures.

【U16 女子名簿】

Table with 13 columns: No, 都道府県名, 選手名, フリカナ, 身長(cm), 体重(kg), ポジション, 利き手, 学年, 学校・チーム名. Lists 39 female athletes from various prefectures.

熊本 通信



「くまモンハンド部」 創設！

■あなたも部員になってキャプテンくまモンと一緒に大会を盛り上げよう！



くまモンハンド部とは、2019女子ハンドボール世界選手権大会をさらに盛り上げるためのファンクラブです。これから、熊本やハンドボールにまつわる情報や、皆さまに楽しく参加して頂けるコンテンツをお届けします。

くまモンハンド部への入部方法は、Facebookに「いいね！」して頂くだけ！みんなで部員になって、キャプテンくまモンと一緒に楽しみながら世界選手権大会を盛り上げましょう！

▽くまモンハンド部フェイスブックはこちら <https://www.facebook.com/kumamonhandbu>

くまモンハンド部第1弾企画！「PASS TO THE MOON PROJECT」始動

■パスをつないで月を目指そう！「世界一スケールの大きなパス回しプロジェクト」

3月1日からスタートする2019女子ハンドボール世界選手権大会のPRプロジェクト「PASS TO THE MOON PROJECT」。世界選手権大会のキャッチフレーズ「Hand in Hand 1つのボールが世界を結ぶ」にちなみ、世界選手権大会PR用に製作したボール（通称：kuma moon ball）を、みんなで「パス回し」して、そのパスの総移動距離を伸ばしていくプロジェクトです。

みんなでパスをつないで月までの距離、384,400kmを目指します。使用する77個のボールにはそれぞれQRコードが付いているので、パスをもらった人はQRコードを読みこんでボールと一緒に記念写真をパチリ。サイトにその写真と共にボールの位置がアップされるので、実際にパスを回す人もそうでない人もボールの「位置」や「移動距離」を確認できます。

詳しくはくまモンハンド部フェイスブックページをご覧ください。色々な著名人も参加してもらえるかも!? 参加者には抽選でプレゼントがあるかも!?

さあ、みんなで月を目指してパスを回しましょう！

▽くまモンハンド部フェイスブックはこちら <https://www.facebook.com/kumamonhandbu>



ボールの現在地がわかる「BALL MAP」
国内外にあるボールの位置が分かる。



現在までの移動距離が一目瞭然！



パス回しプロジェクトで使用する
通称「kuma moon ball」